

平成30年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置							
1・教育に関する事項 (1) 入学者の確保	①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により中学校長や中学校PTAなどの組織への広報活動を行うとともに、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。	教務部 専攻科 広報室	①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。 (教務部) ○鳥取県内の中学校校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、本校校長から高専のPRをする。また、中学生数の減少の中で、あらかじめ進路としての高専の目的と地域の中での高専の役割、さらに高専の教育改革・改善に関する情報を発信する。 ○広報活動の対象地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続する。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。 ○入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証し、改善する。 (専攻科) ○本科3、4、5年生に対して専攻科のPRを実施する。 ○本科3、4年生の保護者に対して専攻科のPRを行う。 ○専攻科のホームページの充実をはかる。 ○専攻科のパンフレットの情報を最新のものにして充実をはかる。 ○専攻科の掲示板の充実をはかる。 (広報室) ○広報室を中心に情報の一元化を行い、入試に関する広報の充実を図る。 ○外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。	(教務部) ○県内外の中学校の校長、進路担当教員および学習塾の進路担当者を対象とする学校説明会を開催し、校長が本校の学校紹介・説明を行った。(6月実施済) ○県内外の中学校において開催される、中学3年生および保護者を対象とする進路説明会に、中学校連絡専門部会の担当者が参加し学校の概要説明をした。講師派遣依頼のあったすべての学校に加えて、今年度はあらたに中部地区の学習塾1校の説明会に参加した。(6月～10月実施済) ○県内3会場、県外1会場で開催された、中学校および学習塾の進路担当者を対象とする入試説明会において、31年度入試の説明に加えて、本校の特徴と近況を説明した。(9月～10月実施済) ○新入生アンケートの結果をもとに入試広報資料の有効性を検証し、新入生が高専に関心をもった経緯に対して学校パンフレットの役割の重要性を確認した。また、学料再編を前提として、明確な学料説明を発信するために新年度版パンフレットの準備を、時期を早めて実施した。(アンケートは4月実施済、3月実施済) (専攻科) ○3、4、5年生に対しては保護者懇談会でパンフレットを配布しPRした。(6月実施済) ○3年生に対しては合同HPで、4年生に対しては学科単位で専攻科の説明を行った。(1月実施済) ○3、4年生と保護者の希望者を対象に、専攻科説明会を実施した。(6月実施済) ○専攻科ホームページの情報の更新を行った。(適宜実施済) ○専攻科パンフレットは最新の情報に更新した来年度版を作成した。(1月実施済) ○専攻科の掲示板の充実をはかった。(適宜実施済) (広報室) ○各学科・科及び各部署からのメンバーで構成する広報室打ち合わせを年度当初(4月)に開催し、その後の情報収集等においてはメール会議を活用して情報の一元化と充実および効率化を図った。(適宜実施済) ○入試広報の一環として、LINE@を用いた中学生とその保護者を対象の情報発信を6月から実施した。(2月末時点で登録者は312名) ○広報誌『彦名通信』を6、10、12、3月に発行した。フルカラー16ページで、発行部数は各1550部。 ○地元ケーブルテレビ(鳥取県民チャンネル)の「知的セミナー」(毎月)や米子商工会議所報「ジャンル」(年4回)などを通して本校教員の研究紹介(研究成果の還元)やトピックスの紹介などを行い、地域へのPRを図った。(適宜実施済) ○「とっとり産業技術フェア2018」(米子コンベンションセンター)において本校広報室のブースも出展し、マンガ広報冊子やパネルの展示で企業・一般来場者等への広報活動を行った。(8月実施済) ○イベント時に展示する米子高専を紹介する広報用パネル「米子高専 虎の巻」を最新情報に更新した。(3月実施済) ○マスコミ各社に随時、情報提供を行い、教職員や学生の活躍がテレビ・ラジオ・新聞等で取り上げられた件数は、全国51高専中でも圧倒的多数の126件となった。(適宜実施済)			達成した。
	②入試説明会、オープンキャンパス等の広報活動を充実させ、入学志願者の確保と学力水準の維持・向上を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。		教務部	②入試説明会やオープンキャンパスを充実させる。 (教務部) ○8月に2日間をわたってオープンキャンパスを実施し、志願者確保を図る。 ○中学校連絡専門部会のメンバーを十分に確保しPR活動に対する校内の意識を高めるとともに、校長・副校長が中学校の進路説明会で、直接中学生に説明する機会を増やす。 ○従来のとおり、個別の訪問見学も随時受け付ける。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。 ○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、女子中学生に対し高専をPRする。	(教務部) ○8月に2日間をわたってオープンキャンパスを実施し、中学3年生587名と保護者の参加があった。(8月実施済) ○中学校連絡専門部会は校長補佐を含む19名の教員で構成し、進路説明会資料を検討するとともに中学校における説明会を担当した。校長補佐は9校に向向いた。(資料検討は5月実施済。説明会は6月～10月実施済) ○中学生および保護者の個別学校見学希望には随時対応するものとし、オープンキャンパスに参加できなかった中学生3名が学校見学に来校した。他にも、4年次編入を希望する高校2年生2名の学校見学を受けた。(8月実施済) ○中学校および学習塾の進路指導担当者を対象とした、入試説明会を開催した。(9月～10月実施済) ○機構が作成する女子中学生向けパンフレットを中学校における進路説明会やオープンキャンパスで随時PRに活用した。(6月～10月実施済)		

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。 入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。 ホームページの充実を図る。</p>	<p>教務部 専攻科 広報室</p>	<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実し、広範な広報活動を展開する。 (教務部) ○中学生やその保護者に対し、高専の情報にアクセスするための多様な手段の提供について検討する。 (教務部・専攻科) ○広報室と連携して本科入学生のため及び専攻科の魅力を発信するためのホームページやパンフレットの充実を図る。 (広報室) ○中学生向けの広報資料の充実を図り、高専の魅力を伝える情報の発信に努める。 ○校外向けホームページの充実を図る。</p>	<p>(教務部) ○中学校での進路説明会やオープンキャンパス等に参加した中学生・保護者に対し、パワーポイント・DVDによる学校説明を実施した。また、本校の学校紹介パンフレットや機構が作成した資料等により、本校および高専の魅力をPRした。(6月～2月実施済) ○学校紹介用DVDの内容を最新の情報に更新した。(8月実施済) (教務部・専攻科) ○広報室と連携して本科入学生のため及び専攻科の魅力を発信するためのホームページやパンフレットの充実を図った。(1月実施済) (広報室) ○高専出身者の活躍を描いたマンガ広報冊子を、県内及び隣接県の中学校での進路説明会の際、各校へ5種1組ずつ配布した。(6～10月実施済) ○学校紹介パンフレットなどに、6月から開始したLINE@へ導くQRコードを掲載し、中学生と保護者などの登録者へ、米子高専のイベント、課外活動の最新情報や校外向けホームページへのリンクを配信した。1、2月は、登録者の約38%がLINE@のメニューを辿って校外向けホームページを開覧しており、閲覧数の増加につながることができた。(適宜実施済) ○校外向けホームページには、中学生向けの情報として在校生からのメッセージなどを新設した。(7月実施済) ○学校紹介用DVDの内容を最新の情報に更新し、放送部が編集作業を行った。(8月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。</p>	<p>教務部 専攻科</p>	<p>④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。 (教務部) ○入学者の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校の入学者受入の方針(アドミッションポリシー)をはじめ、卒業認定・修了認定の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)を募集要項などを通じて伝える。 ○募集活動の段階での資料等を通して、アドミッションポリシーをよりわかりやすい形で示し、高専で学ぶ目的を明確にしておく。 ○マークシート方式による本科学力試験について、手順を確立するとともに、ミスが発生しないような対策を継続して構築する。 ○編入学試験の英語試験問題について外国人によるピアレビューを実施する。 (専攻科) ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用する。</p>	<p>(教務部) ○中学生と保護者に対して、本校の入学者受入の方針(アドミッションポリシー)、卒業認定・修了認定の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)を募集要項、HP等を通して伝えた。(5月～実施済) ○アドミッションポリシーを中学生に理解してもらうため、学校パンフレットに明記した。(5月実施済) ○マークシート方式による本科学力試験について、その実施手順を確立するとともにミスが発生しないような対策を継続して検討した。(2月実施済) ○編入学試験の英語試験問題において、英語を母国語とする外国人によるピアレビューを実施した。(7月実施済) ○帰国子女特別選抜制度を導入、合否判定の基準を整備した。(2月実施済) (専攻科) ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用した。(12月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 寄宿舎に関する中・長期計画の策定を基に計画的な整備を推進し、必要に応じて予算要求を行う。</p>	<p>教務部 事務部</p>	<p>⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 (教務部) ○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討し、新たな中学校向けのPRのうち可能なものから実施する。 (財務) ○予算要求に向けて、関係各所と連携を図り、実現可能な計画を検討する。</p>	<p>(教務部) ○機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科の3学科への女子学生の入学を推進する方法を検討した。機械工学科はパンフレットを作成して中学校に送付、電子制御工学科は女子学生の活躍を紹介したチラシを作成した。(4月実施済) (財務) ○今後の留学生総数や女子留学生・女子寮生の増加を踏まえて、関連部署と予算要求に向けて今後の寮の整備計画について検討・協議を行った。(2月～3月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。</p>	<p>運営会議 教務部 専攻科</p>	<p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 (運営会議) ○平成29年3月15日に将来構想検討委員会から答申された米子高専の将来を見据えた育成する人材像、「KOSEN(高専4.0)イニシアティブ」を足がかりとした新産業対応型教育のあり方など、地域の実情に合わせた学科構成の見直しと専攻科の整備・充実を引き続き検討する。 (教務部・専攻科) ○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動しつつ、将来構想委員会の答申をベースに、本科と専攻科の改組を検討する。 (専攻科) ○地域の実情に合わせた専攻科の整備・充実を検討する。</p>	<p>(運営会議) ○将来構想検討委員会・答申書をベースに、1学科複数コース制に再編する本科改組案を「学科再編等検討WG」において検討し、申請に向けた準備を進めた。(4月～3月実施) ○「KOSEN(高専4.0)イニシアティブ」において、昨年度から継続している2事業に加え、新たに「山陰とっとりしまねの企業とつくる女性技術者活用推進プログラム」が採択され、第4期中期目標期間への助走期間としての取り組みを行った。(7月～3月実施) (教務部・専攻科) ○15歳人口の減少や産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動しながら、校長補佐(総務・企画)・教務主事・専攻科長を中心とした学科再編検討WGの中で、本科や専攻科の改組の検討を継続実施した。(4月～3月実施済) (専攻科) ○学科再編等検討WGなどで専攻科の充実もあわせて検討を行った。(4月～3月実施済)</p>	<p>(運営会議) ○1学科複数コース制に再編する本科改組案をとりまわすため、文科省への申請は見送りとなった。</p>	<p>(運営会議) ○令和3年度の改組実施に向けて校長を委員長とする「改組実行委員会(仮称)」を組織し、より優れた計画となるように見直しを進める他、全校をあげて準備に取り組む。</p>	<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
①-2 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。	運営会議	①-2産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 (運営会議) ○平成27年度に実施した定期的(原則:1回/5年)企業・卒業生アンケート結果、および平成28年度に将来構想検討委員会が企業・大学に実施した今後要望される技術者像に関するアンケート結果などの分析結果に基づき、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の再編等について引き続き検討する。	(運営会議) ○各種のアンケート調査結果や平成30年3月に策定された「鳥取県経済成長創造戦略」などの分析結果に基づき、1学科複数コース制に再編する本科改組案を「学科再編等検討WG」においてとりまとめた。(4月～3月実施済)			達成した。
②本科入学時の基礎学力を把握するための試験を実施する。 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」について学習到達度試験を実施し、試験結果を分析し、学生の学習到達度を向上させるための教育課程や教授方法の改善に役立てる。 本科及び専攻科でTOEICを義務付け、その結果を基に英語力の強化について検討する。 英語を科目としてだけではなく、実際のコミュニケーションのツールでもあるということを意識させるような大会等への参加を促し、国際的な研修、アカデミックな講習会などへの参加を奨励する。	教務部 専攻科 教養教育科	②入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。 (教務部) ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。 ○有効な時期にCBTによる学習到達度試験(数学・物理・化学)を実施する。また、対策としての模擬試験の実施、過去問題の長期休業中の課題への利用、公式等をまとめた復習用教材の作成等を通して、この試験を学習改善に活用する。 ○本科3年生全員にTOEIC受験を実施する。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。 ○初級および中・上級のTOEIC講座の実施方法や内容について見直し、講座への参加者増加の方策を検討・実施する。 (専攻科) ○TOEICスコアを分析し、学生の英語力の伸長状況・教育効果を検討する。 ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用する。 ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸長に関して情報交換を行い、効果的な教授法について検討する。 (教養教育科) ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、思考力を重視した問題を宿題として出題し、日々の学習での学生の学力向上を目指す。 ○定期試験の問題を精選し、学生の学力が向上する教育を実施する。 ○毎年行っている実力試験を例年より早期に行い、その結果を踏まえた学習指導を行う。 ○数学検定の受験を奨励し、その単位化を検討する。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励する。 ○工業英検、TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックを行う。 ○各種資格試験については、電子掲示板を活用し学生への周知をする。 ○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。 ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う。 ○全学年の希望者を対象としてTOEIC対策講座を前後期それぞれ実施する。講座に参加し一定の条件をクリアした学生に対し、優遇措置を設けることで、意欲的な学習への取り組みを促す。 ○前期TOEIC対策講座の回数を10回から12回に増やす。 ○今年度より、授業外でCALL教室を開放し、自学自習に利用できるようにする。 ○TOEIC Bridgeの単位化について検討する。 ○英語総合1、多読多聴英語等の授業を通じて、図書館にある英書を読むことを奨励する。	(教務部) ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施した。(4月実施済) ○1年生に数学、化学の2科目、2年生には数学1科目のCBTを実施した。3年生については、従来の学習到達度試験に替わるCBTを数学と物理の2科目で実施した。また、対策としての模擬試験の実施、過去の学習到達度試験問題の長期休業中の課題への利用等を通して、この試験を学習改善に活用した。(10月～1月実施済) ○本科3年生全員を対象にTOEIC受験を実施した。(2月実施済) ○年度末に実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った。(3月実施済) ○英語力向上のためのTOEIC講座を、前期全12回の講座として、後期は全10回の講座として開講した。参加者数は平均1日あたり391名であり、1講座の8割以上に参加した学生数は計71名であった。(前期は5月～7月、後期は10月～12月実施済) (専攻科) ○TOEICスコアを分析し、学生の英語力の伸長状況・教育効果を確認した。(3月実施済) ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用した。(12月実施済) ○外国語科の担当教員と意見交換を行って、今後のTOEICスコアアップの方策を検討した。(3月実施済) (教養教育科) ○本科2年生に対しボルダの振り子の実験を行い、重力加速度の平均値、標準偏差、誤差範囲を求めさせ、数値データサイエンス教育を行った。(9月実施済) ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、思考力を重視した宿題を毎回出題し、日々の学習での学生の学力向上を目指している。(適宜実施済) ○応用物理では前期中間試験、前期末試験で思考力を問う問題を1問出題し、学生の思考力向上を目指した。数学でも定期試験の問題を精選し、学生の学力が向上する教育を実施した。(適宜実施済) ○毎年行っている実力試験を、物理は11月8日、数学は11月14日と例年より早期に行った。そして、その結果を踏まえた学習指導を行った。(11月実施済) ○数学検定の受験を奨励し、その9月6日に単位化を検討する数学科会を開催した。 ○英語の初回の授業で英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励した。(適宜実施済) ○英語の初回の授業で工業英検、TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促した。なお、後期結果の向上を記録してフィードバックを行った。(適宜実施済) ○各種資格試験については、電子掲示板を活用し学生への周知を行った。(適宜実施済) ○低学年(1～3年生)において、英語の授業の中で定期的に語彙テストを行っている。学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施した。(適宜実施済) ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行った。(7月実施済) ○前後期とも全学年の希望者を対象としてTOEIC対策講座を実施した。講座に参加し一定の条件をクリアした学生に対し、優遇措置を設けることで、意欲的な学習への取り組みを促した。(適宜実施済) ○前期TOEIC対策講座の回数を10回から12回に増やし、授業時間も60分から75分に延長した。(適宜実施済) ○今年度より、授業外でCALL教室を開放し、自学自習に利用できるようにした。(4月実施済) ○外国語科会でTOEIC Bridgeの単位化について検討し、教務委員会に提案・了承された。(1月実施済) ○英語総合1、多読多聴英語等の授業を通じて、図書館にある英書を読むことを奨励した。(適宜実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>③学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>教務部 専攻科 総務・企画部</p>	<p>③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 (教務部) ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 (教務部・専攻科) ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。 ○授業評価アンケートの学生へのフィードバックの有効な方法を検討する。 ○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。 (総務・企画部) ○平成27年度に実施した卒業生・修了生ならびに採用実績企業への定期的(原則:1回/5年)アンケート結果、および平成28年度に将来構想検討委員会が企業・大学に実施した今後要望される技術者像に関するアンケート結果に基づいて、各部署における中期的視座に立った改善への具体的取り組みを促す。 ○学生・教職員アンケートを実施し、その分析結果に基づいて、各部署における改善への具体的取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○米子高専同窓会総会および各支部(首都圏・関西・中部)総会などの機会を利用して、卒業生との情報交換を実施する。 ○米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)と同窓会との関係を整備し、情報交換網の充実を図る。</p>	<p>(教務部) ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した。(11月実施済) (教務部・専攻科) ○学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した。(2月実施済) ○授業評価アンケートの学生へのフィードバックの有効な方法を検討した。(3月実施済) ○授業評価の高い教員の授業を対象に、新任教員が授業見学をした。(7月実施済) また、全教員が同じ学科の教員と組み、相互授業見学をした上で、FD研修として意見交換を実施した。(10月～1月実施済) (総務・企画部) ○平成27年度・卒業生・修了生ならびに採用実績企業へのアンケート(5年毎)結果、および平成28年度:企業・大学への将来構想に関するアンケート結果などを、「平成29年度版 独自の自己点検・評価報告書」として冊子化し、各部署に配布するとともに校外向けHPに掲載し、中期的視座に立った改善への取り組みを促した。(8月実施済) ○昨年度実施した学生・教職員アンケート結果を取りまとめたとともに点検・評価委員会で報告し(4月実施済)、運営会議・学科長会議において各部署への伝達と今年度中の改善の取り組みを促した。(5月実施済) また、本調査結果は校内向けHPにて公開した。(7月実施済) ○米子高専同窓会総会(6月実施済)及び首都圏支部総会(4月実施済)、関西支部総会(5月実施済)に際して、同窓会・卒業生と学校の間で情報交換を促すと同時に、連携のあり方について検討した。一悪天候のため同窓会中部支部総会(7月実施済)へは学校関係者が出席できなかった。 ○第6回Ynct-net連絡会を開催し、同窓会の現状と課題及び学校・地域への貢献のあり方について協議した。(6月実施済) ○同窓会役員と学校関係者(OB教員など)との意見交換会を実施した。(10月、12月、3月実施済)</p>	<p>(総務・企画部) ○悪天候のため同窓会中部支部総会(7月実施済)へは学校関係者が出席できなかった。</p>	<p>(総務・企画部) ○中部支部長とは別途意見交換の機会を設けた。(10月、12月、3月実施済)</p>	<p>達成した。</p>
<p>④ロボコン・フロンコン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>	<p>学生部</p>	<p>④スポーツ系、文系部系活動などの全国的な各種競技会等やロボットコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。 (学生部) ○ロボコン・フロンコン・デザコン・プレコン及び学会発表などを奨励する。 ○高専体育大会をはじめとする各種大会への参加を奨励する。 ○優秀な成績はホームページや掲示等で、また特に優秀な成績については横断幕を作成し学内外にPRする。</p>	<p>(学生部) ○中国地区高専体育大会、全国高専体育大会参加学生を支援した。(7～9月実施済) ○ロボコン中国大会・全国高専フロンコン(10月)参加学生を支援した。(4月～実施済) ○各種大会やコンテストでの優秀な成績はホームページや掲示等で、また特に優秀な成績については横断幕を作成し学内外にPRした。(4月～実施済)</p>	<p>(学生部) ○第54回中国地区高専体育大会開催中に豪雨災害が発生し、参加学生および引率教員の安全を最優先し、一部競技においては、急遽延泊等の措置をとった。</p>		<p>達成した。</p>
<p>⑤学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 雪害で被害を受けた松林を再生する取組である白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。 寮学生会主導による清掃活動やボランティア活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。</p>	<p>学生部 寮務部</p>	<p>⑤ボランティア活動などの社会奉仕体験活動を実施する。 (学生部) ○学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 ○白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。 ○献血活動、プリンターカートリッジ回収等の活動を継続実施する。 (寮務部) ○粟島神社の清掃及び近隣の知的障害者通所授産施設の「われもこう祭」等イベントの支援・ボランティア活動を実施する。</p>	<p>(学生部) ○白砂青松アダプトプログラム(雪害で被害を受けた松林を再生する取組)に伴う学生による松林の清掃活動を実施した。(6月、7月実施済) ○白砂青松アダプトプログラムに伴う教職員による松林の除草作業を実施した。(9月実施済) ○白砂青松アダプトプログラムに伴う学生による松林の植林活動を実施した。(11月実施済) ○近隣の知的障害者通所授産施設の「われもこう祭」において、吹奏楽部が演奏を行った。(10月実施済) (寮務部) ○粟島神社での清掃奉仕を2回実施した。(男女1・2年生、6月及び10月実施済) ○近隣の知的障害者通所授産施設の「われもこう祭」におけるイベント運営の支援を実施した。(10月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>①多様な背景を持つ教員組織とするため、引き続き公募制を導入し、採用にあたっては適切な配慮を行う。</p>	<p>運営会議</p>	<p>①多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。 (運営会議) ○優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化について組織的な配慮を行った上で、その改善に関する記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。</p>	<p>(運営会議) ○優れた教育力を有するものを採用するため、教員人事会議で学科等の年齢構成、その他諸条件を考慮しながら、学科間の公平性や透明性の担保、専攻科における特例適用担当の可否、あるいは企業等との連携実績など多角的に人物選考を行った。(4月～3月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために可能な範囲で人事交流制度を活用する。</p>	<p>運営会議</p>	<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。 (運営会議) ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野及び派遣候補者の推薦を依頼し、提出された資料をもとに、教員人事会議で審議の後、運営会議で受入と派遣計画を策定する。</p>	<p>(運営会議) ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼したが、派遣候補者の推薦はなかった。(8月実施済) ○平成31年度高専機構在外研究員として電気情報工学科田中博美准教授を推薦し、採択された。(9月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
③専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者、理工系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	運営会議	③理工系については博士の学位を持つ者や技術士・建築士等の職業上の高度の資格を持つ者、理工系以外については修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。 (運営会議) ○教員の学位・高度な資格等、また最近の業績を調査し、学校要覧や研究シーズ集に掲載する。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み、採用する人材を吟味する。 ○学校教育法に基づき、年度毎の教員の業績調査を4月に実施し、専攻科の特例適用認定・専攻科レビュー等に依る研究・教育力の維持・向上に努める。	(運営会議) ○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載した。(5月実施済) ○新任教員募集に当たっては、学科等の年齢構成、その他諸条件を考慮しながら募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み、審査した。(5月～3月実施済) ○学校教育法に基づき、年度毎の教員の業績調査を実施し、専攻科の特例適用認定・専攻科レビュー等に依る研究・教育力の維持・向上に努めた。(4月実施済)			達成した。
④女性教員の比率向上を可能な範囲で図る。 女性教職員に対する、就業環境改善を目的とした整備を行う。	運営会議 男女共同参画推進室 事務部	④女性教員の比率向上を図る。 (運営会議) ○各学科・科の教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をする。 (男女共同参画推進室・財務) ○男女共同参画推進室を中心に、女性教職員の意見を聴取しながら、生活・就業環境改善(更衣室、休憩室、トイレ等の整備)を可能な範囲で推進する。	(運営会議) ○全ての教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をした。(適宜実施済) (男女共同参画推進室・財務) ○男女共同参画推進室にて収集した女性教職員などの意見を運営会議で報告し、インフラ整備委員会へ引き継いだ。(9月実施済) ○男女共同参画推進室で得た女子学生からの要望を反映し、女子更衣室隣の女子トイレ・洗面所入口に目隠し仕切りを設置した。(9月実施済) ○3階合同講義室東側の男子トイレを女子トイレに改修し、校内の男女トイレ数比率を適正化した。(3月実施済) (財務) ○女性教職員の就業環境改善のため、男女共同参画推進室と連携し、女性用トイレの整備計画を立て機構に予算要求を行った。(9月実施済) ○整備計画に基づき管理棟3Fの男子トイレを女子トイレに改修した。(3月実施済)			達成した。
⑤各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とする研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等にも教員を積極的に派遣する。 FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力の向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観等を実施する。	運営会議 FD・SD委員会	⑤ファカルティ・ディベロップメントなど教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 (運営会議・FD・SD委員会) ○授業評価アンケート結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。 ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ○採用2年以内の新任教員の居屋として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。 ○FD・SD委員会が中心となって、各部署で実施しているFDの集約化を図り、より効率的かつ戦略的なFDの実施に取り組む。	(運営会議・FD・SD委員会) ○授業評価の高い教員の授業を採用2年以内の教員が見学する授業参観を実施した。(7月実施済) ○採用2年以内の教員と分野の近いベテラン教員とがペアを組み、双方向の授業参観を実施した。(11月～1月実施済) ○採用2年以内の新任教員の居屋として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図った。(4月実施済) ○FD・SD委員会が中心となって、各部署で実施しているFDの集約化を図り、より効率的かつ戦略的なFDの実施に取り組んだ。本年度は「学生指導支援体制」を主要テーマとし、教務部・学生部を注心にFD活動に取り組んだ。(5月～3月実施済) ○教員が相互授業参観を行い、PDCAサイクルを回して授業改善に資するしくみを構築・実施した。(10月～3月実施済)			達成した。
⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 毎年度、教育研究活性化経費配分によるインセンティブ付与を行うことで教員の活性化を促す。 点検・評価委員会にて、教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。	運営会議 点検・評価委員会	⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 (運営会議) ○機構主催の教員顕彰制度を活用するため、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ、運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行う。 ○前年度の地域貢献活動に関する評価アンケートや、「地域共同教育」という視座に立った教員の教育研究活動に関する取組状況について調査し、評価基準に基づいた評価の上で運営会議で地域貢献助成金等の配分を決定する。 (点検・評価委員会) ○教育研究活性化経費(ブレ科研究費・新任/若手研究助成費等)の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことで、インセンティブ付与による教員の教育研究活動の活性化を促す。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。	(運営会議) ○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行った。(11月実施済) ○企業からの技術相談および地域貢献活動については評価アンケート結果を基に前期・後期の実施結果をまとめ(9月実施済・3月実施済)、インセンティブ付与を行った。(11月実施済・3月とりまとめ分は翌年6月実施済) (点検・評価委員会) ○教育研究活性化経費(ブレ科研究費・新任/若手研究助成費等)の公募を実施(7月実施済)し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促した。(9月実施済) ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行った。(6月実施済)			達成した。
⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。	運営会議	⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。 (運営会議) ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせる。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表する。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「共同研究助成」制度の活用や「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。	(運営会議) ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせた。(4月～3月実施済) ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表した。(4月～3月実施済) ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「共同研究助成」制度の活用や「高専・技科大間教員交流制度」を実施した。(4月～3月実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進める。「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用について検討する。本科低学年の学習支援を実施する。</p>	教務部	<p>①-1モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。</p> <p>(教務部) ○モデルコアカリキュラムの内容を取り入れ、30単位分の学修単位を導入した新カリキュラムを適正に運用する。 ○新カリキュラムの平成31年度完成に向けて、ルーブリックを含めて、Webシラバスを改善する。 ○アクティブラーニングによる学生の主体的学習促進のため、公開授業の有効な開催方法を検討する。 ○レポート提出等にBlackboardをはじめとするLMSを継続して利用する。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。 ○学生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援方法を検討し、より自学自習ができる環境整備を検討する。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業研修を実施し、講義力アップを図る。 ○編入学生への学習支援の需要を確認し、必要に応じて支援を実施する。</p>	<p>(教務部) ○モデルコアカリキュラムおよびKOSEN4.0イニシアティブの内容を含むとともに、各学科30単位の学修単位を導入した新カリキュラムを、4年生に対して適正に運用した。(～2月実施済) ○新カリキュラムが全学年に実施される31年度に向けて、Webシラバスの到達目標とルーブリックの対応を確認し、改善した。(3月実施済) ○アクティブラーニングによる学生の主体的学習を促進する等教育の質保証のための相互授業参観を実施した。(10月～1月実施済) ○レポート提出等にBlackboardをはじめとするLMSを継続して利用した。(4月～実施済) ○採択された「KOSEN4.0」イニシアティブ等の外部資金等を活用し、企業人材を活用した教育プログラムを実施することで教育内容の充実を図った。(8月実施済) ○学生によるTAと非常勤講師等による時間外教科指導を組み合わせた本科低学年への学習支援を実施した。(5月～2月実施済) ○新任教員に対し、ベテラン教員との双方向授業参観を実施し、講義力向上を図った。(6月～1月実施済) ○留学生及び編入学生への学習支援について各学科長に確認し、その結果を踏まえ、編入学生に対して担任・科目担当による事前指導を実施した。(10月～2月実施済)</p>			達成した。
<p>①-2 高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	教務部	<p>①-2「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p> <p>(教務部) ○高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>(教務部) ○高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」の整備を計画的に進めた。(4月～実施済) ○学生基本情報を共有化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進した。(4月～実施済)</p>			達成した。
<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努める。在学中の資格取得を奨励する。</p>	<p>専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会</p>	<p>②JABEE認定プログラム継続のために、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。</p> <p>(専攻科) ○昨年度受審した複合システムデザイン工学プログラムおよび建築学プログラムのJABEE認定継続審査の結果を基に、改善を検討する。 ○昨年度受審した学位授与機構による特例専攻科・認定専攻科の教育の実施状況等の審査に対する審査結果を基に、改善を検討する。 ○特例適用専攻科の学修総まとめ科目を担当する教員の増員を図る。</p> <p>(キャリア支援室) ○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生にWeb公開する。 ○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。</p> <p>(JABEE委員会) ○平成29年度に受審・継続認定を受けたJABEEプログラム(複合システムデザイン工学P・建築学P)について、教務部・専攻科と連携して審査時の指摘事項(C判定)への対応にあたる。そして、本科・専攻科のカリキュラム改訂の検討を含めた継続的な教育の質の向上に努める。</p>	<p>(専攻科) ○昨年度受審した複合システムデザイン工学プログラムおよび建築学プログラムのJABEE認定継続審査の結果を基に、改善を検討し、改善したものをWebシラバスに掲載した。(1月実施済) ○昨年度受審した学位授与機構による特例専攻科・認定専攻科の教育の実施状況等の審査に対する審査結果を基に、改善を検討し、該当教員へ改善を促した。(5月実施済) ○特例適用専攻科の学修総まとめ科目の変更申請を行い、3名の指導補助教員を指導教員とする変更と1名の指導教員の追加について申請し、認められた。(2月実施済)</p> <p>(キャリア支援室) ○資格試験の案内パンフレットを作成し、4月に在学生が閲覧できるようにWeb公開した。(4月実施済) ○在学中の資格取得状況を2月末までに調査し、その結果を米子高専広報誌「彦名通信196号」にて3月に公表した。(2～3月実施済)</p> <p>(JABEE委員会) ○平成29年度の受審において、シラバスに評価基準が示されていない科目があり、到達目標の達成に懸念があるとの指摘(C判定)を受けている。これよりWebシラバスの再点検を行い、内容の修正を行った。(9月実施済)</p>			達成した。
<p>③学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。</p>	<p>学生部 寮務部 専攻科</p>	<p>③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。</p> <p>(学生部) ○平成30年度中国地区高等専門学校執行長会議および文化連盟運営委員会への学生の参加を促し学生間の交流を図る。</p> <p>(寮務部) ○他高専の寮生会との交流会を実施する。</p> <p>(専攻科) ○高専シンポジウムや高専学会、各種学会への学生の参加を促し、学生の交流を図る。</p>	<p>(学生部) ○平成30年度中国地区高等専門学校執行長会議および文化連盟運営委員に2名の学生が参加した。(6月実施済)</p> <p>(寮務部) ○米子高専寮生会役員9名(男子6名、女子3名)が豊田高専を訪問し、豊田高専寮生会との交流会を実施した。(11月実施済)</p> <p>(専攻科) ○高専シンポジウム(1月)や高専学会(9月)、各種学会への学生の参加を促し、学生の交流を図った。(適宜実施済)</p>			達成した。

<p>米子工業高等専門学校 第3期中期計画</p>	<p>主たる 担当部署</p>	<p>平成30年度計画</p>	<p>実績報告 (期末)</p>	<p>課題・問題点 (期末)</p>	<p>改善策 (期末)</p>	<p>実施結果 (達成状況)</p>
<p>④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。</p>	<p>教務部 専攻科 リベラルアーツセンター 医工連携研究センター</p>	<p>④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。</p> <p>(教務部) ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。</p> <p>(専攻科) ○鳥取大学医学部の教員を専攻科の非常勤講師として招き、医工連携協働教育を行う。 ○医療機関の医師・看護師を専攻科の講師として招き、医療福祉機器開発に関する実践的実験実習を行う。</p> <p>(リベラルアーツセンター・教務部) ○リベラルアーツセンターを中心に新時代のジェネリクススキル養成のためのリベラルアーツ教育の内容を検討する。 ○リベラルアーツや自学・自習用の学生用図書を整備を行い、読書や文化活動等を推進する。 ○第一線で活躍する他分野の研究者の講演等により、専門分野に対して相対的に考える機会とする。</p> <p>(リベラルアーツセンター) ○リベラルアーツに関する研究会を開催し、高専におけるリベラルアーツの意義について明確化する。 ○学生がリベラルアーツに親しみ、教養を向上させるため、学生が時事・社会問題について話し合う「リベラルアーツ談話会」を開催する。</p> <p>(医工連携研究センター) ○平成29年度に創設した「医工連携研究センター」を中心に、①医工連携共同研究を核とする新産業の創成や地方創生事業に係わる地域産業の振興、および②医工連携協働教育による新産業を牽引しうる教育プログラムやカリキュラム改革による人材育成を目的とし、各種事業を展開する。 ○平成29年度に続いて、「第2回とっとり医工連携フォーラム」を開催することで、本地域における医療・介護機器開発に係わる事業展開を活性化させ、医療・介護機器製造や販売事業の機運を醸成する。 ○「医工連携研究センター」の具体的な運用により、早期の成果獲得(医療介護機器開発・外部資金獲得・新規カリキュラム創設等)を推進する。</p>	<p>(教務部) ○医療福祉機器開発企業からエンジニアを招き、エンジニアリングデザイン能力を育成する講演会を、4・5年生を対象に実施した。(10月実施済) ○高専のグローバル化に関するFD研修会を実施した。(11月実施済)</p> <p>(専攻科) ○鳥取大学医学部から3名の教員を非常勤講師として招き、1年後期の授業「複合社会技術論」で医工連携に関連する講義を行った。(11月実施済) ○生産システム工学専攻・物質工学専攻の2年前期で開講している「創造実験」で皆生温泉病院から医師、介護福祉士を講師として招き、医療福祉機器開発に関する実践的実験実習授業を行った。(4～8月実施済)</p> <p>(リベラルアーツセンター・教務部) ○新時代のジェネリクススキル養成のためのリベラルアーツ教育の内容を検討した。(4月～実施済) ○学生の自学自習のための図書館利用を推進した。(4月～実施済) ○リベラルアーツ特別講演会として、世界的第一線で活躍する感星科学者による講演会を開催した。(5月実施済)</p> <p>(リベラルアーツセンター) ○高専におけるリベラルアーツ教育に関する、教員対象の研究会を2回行った。(第1回11/20(火)参加者5名、第2回12/13(木)参加者9名) ○第2回高専リベラルアーツ教育研究交流会を企画し、開催した。(3/8(金)、米子コンベンションセンター第3会議室、参加者17名) ○4回の学生対象の講演会を行った。(第1回10/26(金)参加者34名、第2回12/12(水)参加者36名、第3回11/23(水)参加者：講演会58名、座談会：学生35名、男女共同参画室・キャリア支援室・国際交流推進室と共催、FD研修会を兼ねる)、第4回2/20(水)参加者101名) ○高専におけるリベラルアーツ教育およびアクティブラーニングに関する論文投稿を2本支援した。(『日本高専学会誌』、『工学教育』) ○学生が文化・教養について発表した「リベラルアーツ談話会」を企画し、3回実施した。4/24(火)、11/19(月)、12/17(月)、各回20名弱の参加者)</p> <p>(医工連携研究センター) ①医工連携共同研究を核とする新産業の創成や地方創生事業に係わる地域産業の振興について ○今年度も医工連携に係わる共同開発試作品製作の学内公募を行い、医工連携研究の新規6テーマを選定し、10月より予算配分を行った。また、昨年度からの継続分4テーマに関しても、今年度補正予算を配分し年度内の試作品開発と年度末の最終報告書提出を義務づけた(3月末〆切)。なおこの4テーマは、平成31年度内での講演発表などを予定している。 ○メインテーマとして昨年度から取り組んでいる米子高専教授と鳥取大学医学部助教との共同研究、「健康寿命を延ばす生活見守りシステムの研究開発」に関しては、1月に、その進捗状況と成果を米子高専振興協会 新年技術交流会にて講演発表を行い好評を博した(1月末実施済)。 ○医学部附属病院新規医療研究推進センターから3名(植木先生、上原先生、古賀先生)の参加を得て、「進路研究セミナー(1/12開催)」において医工連携企業相談会を開催し、出展している県内外の企業と医療機器開発・製造等に必要な人材像やその養成・リクルートの課題などについて意見交換を行った(1月実施済)。これにより、今後の本校・鳥取大学医学部・関連企業の連携強化を図り、学生の就職先の高度化・多様化につなげていく。 ○平成30年度「医工連携シーズ集」への掲載テーマを募集し、平成29年度の13名から平成30年度は19名への増加を達成した(5月末実施済)。 ②医工連携協働教育による新産業を牽引しうる教育プログラムやカリキュラム改革による人材育成事業について ○地域協働教育による人材育成については、医学部学生と本校専攻科学生との合同講義・合同ミーティングを今年度これまでに7回開催し、鳥取県における医工連携研究の意義や必要性、医工連携による商品化成功事例などの講演およびケーススタディを実施した。さらに成功事例に対して、新たに商品に盛り込めるイノベーション提案などが学生から提示され医工連携に関する議論が大いに深まった(6月・7月・8月・2回・9月・11月・1月実施済)。 ○また、平成30年度夏期休業期間中に、全学科第4学年を対象とする「フロンティア工学セミナー(医工連携・ヒューマンデザイン教育の一環とする2日間の集中講義)」を新規開設し、医療・介護福祉機器開発に繋がる融合・複合的技術者育成に向けた教育プログラム構想の実施に着手した(8月実施済)。さらに、年度内に本実施内容と学生のレポートを纏めることで冊子化を図り、本プログラムの全国高専への普遍化を図った(3月実施済)。なお、上記「フロンティア工学セミナー」の担当教員は、地元医療機器メーカーの技術者1名、医学部教員2名、国立大学教員1名を含む各学科および専攻科から選出された7名の教員によるオムニバス方式とし、学科等の負担を軽減、均等化すると共に医学部と本校とのクロスオーバ講義とすることに廣心した。なお、それぞれの医工連携講義に関するアンケートを実施し、受講者の満足度と今後の要望講義内容なども把握した(9月実施済)。 ○さらに、専攻科の講義では医学部から講師を招聘する「複合社会技術論」を開講している(専攻科1年後期開講にて2単位)。今年度の具体的な医学部教員による「複合社会技術論」の実施日程は、11/8:植木先生、11/15:上原先生、11/22:古賀先生の担当とし、これを実行に移した。なお、これら医学部教員によるオムニバス方式の医工連携講義に関してアンケートを実施し、受講者の満足度と今後の要望講義内容などを把握した(1月実施済)。 ○また一方で、本校から医学部教職員向け「AI・ビッグデータ解析」について:8/27実施)、あるいは医学部学生向け(「鳥取県における医工連携の必要性と米子高専の取り組み」および「医工連携によるオーラルシエル開発」:9/26実施)の講演会をこれまでに2回実施し、クロスオーバ講義の布石とした。さらに、後期のクロスオーバ講義:第二弾は、「健康寿命の延伸:生活見守りシステムの研究」⇒教職員対象:3/15実施、「核磁気共鳴の基礎と医療診断への活用」⇒医学部生対象:3/27実施とし、今後も継続して行く予定である。 ○新たに、2020年度に正式な科目開設を目標とする、数理データサイエンス教育プログラムのβ版(AIを用いたシステム制御とプログラミング講座初級編(本科上級生および専攻科生を対象)、AIプログラミング講座入門編(入学前・中学生、本科低学年対象))を構想・策定し、年度末にトライアル講義を実施した(3月実施済)。</p>	<p>(医工連携研究センター) ○医学部は教員だけでなく学生も実習や国家試験に係わる夜間講義があるなど多忙であり、クロスオーバ受講部へのキャリアパスに関するアンケートにも前向きに対応し、本校学生の医学部へのキャリアパスに関する潜在的な需要を認識させること、学生の進路選択の多様性と優位性を確保して行く。</p>	<p>(医工連携研究センター) ○医学部博士課程の改組を好機と捉え、その必要性に関するアンケートにも前向きに対応し、本校学生の医学部へのキャリアパスに関する潜在的な需要を認識させること、学生の進路選択の多様性と優位性を確保して行く。</p>	<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
			<p>③第2回とつり医工連携フォーラムが医学部協力のもと、地域企業・行政・金融機関・地元医療介護従事者など100余名の参加者を招き盛大に開催され、大いに好評を博した(9月実施済)。なお、医工連携フォーラム内では、YMCA米子医療福祉専門学校の河合康明校長による「地域包括ケアと機器開発-宇宙医学から発想を得て-」と題しての基調講演が実施された。その後、とつり医療機器開発成功事例発表(Needs & Manufacturing)として、「オーラルシエルの開発」を題材に医学部附属病院の中力直樹副部長と(株)ケイケイの内藤邦武会長による講演を経て、パネルディスカッション(P/D)が開催された。このP/Dでは、医学部学生と本校専攻科学生、総勢7名(教育イノベーションユニット)による「オーラルシエル」への新たなイノベーション提案が発表され、講演者・来場者も含めて大いに議論も深まり出席者やマスコミ各社にも大変好評であった(9月実施済)。</p> <p>④医工連携研究センターの運用による早期の成果獲得(医療介護機器開発・外部資金獲得・新規カリキュラム創設等)推進について</p> <p>○医工連携に関する技術開発や機器開発に取り組み学生の育成と研究成果獲得のため、卒研・特研における医工連携関連テーマ数の増加を推進し、平成30年度末実績は20件(テーマ)を達成した(因みに平成28年度は0件、平成29年度は18件であった。平成30年度の目標値は5件と設定している)。また、第4期中期計画に向けた目標を、医工連携研究テーマ数15件以上(各学科2件以上とし、平成35年に向けて定常的に増加させる)と新たに設定した(11月実施済)。</p> <p>○医工連携研究センターの具体的な資金運用により、上記共同開発試作品製作に向けた取り組みを地元企業(MICOTOテクノロジー・守谷刃物研究所(株)ケイズ)などと共同で医療機器開発を推進した(10月より適宜実施済)。また、医工連携研究に係わる外部資金獲得については、目標(平成28年度末160万円→平成30年度末240万円(1.5倍))に対して、平成30年度末実績11件:9,964,640円(内訳は共同研究3件:2,306,000円、受託研究1件:2,008,640円、寄附金3件:1,100,000円、科学研究費4件:4,550,000円)を達成した(2月末実績)。</p>			
<p>⑤各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。</p>	<p>運営会議 総務・企画部</p>	<p>⑤多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。</p> <p>(運営会議) ○各界有識者により組織された評議員会を、原則として年一回以上開催し独自の外部評価を実施することで、PDCAサイクルを活用した教育の内部質保証や改善・向上に役立てる。 ○本校独自の自己点検・評価書の作成や点検・評価組織を核とした継続的且つ具体的な改善が実施できるよう各部署への取り組みを促す。</p> <p>(総務・企画部) ○機関別認証評価による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。また、この評価結果を校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRする。 ○本校独自の自己点検・評価書を作成し、各部署ごとの内部相互評価および評議員会等による外部定量的評価を経ることで、教育の質の保証がなされるよう留意する。</p>	<p>(運営会議) ○評議員会を開催し、独自の外部評価を実施することで、PDCAサイクルを活用した教育の内部質保証や改善・向上に役立てた。(3月実施済) ○「平成29年度版 独自の自己点検・評価報告書」をまとめ、各部署に配布するとともに校外向けHPに掲載し、中期的視座に立った改善への取り組みを促した。(8月実施済)</p> <p>(総務・企画部) ○機関別認証評価の説明会に係わる資料を収集し、次回の受審に向けて部内の情報共有を図った。(8月実施済) ○平成28年度の評価結果については校内ホームページや学校要覧等で公開し、広報活動に努めることと本校の教育の質の高さや特色をPRした。(適宜実施済) ○本校独自の自己点検・評価書を作成・冊子化することで、各部署ごとの内部相互評価および評議員会等による外部定量的評価を通じた教育の質の保証がなされるPDCAサイクルを一巡させた。(8月実施済)</p>			達成した。
<p>⑥インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進する。また、地域産業界との連携による共同教育体制を検討する。</p>	<p>キャリア支援室</p>	<p>⑥学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。</p> <p>(キャリア支援室) ○インターンシップ情報データベースの充実を図る。 ○地方公共団体、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育を検討する。</p>	<p>(キャリア支援室) ○インターンシップ情報データベースを作成し、運用を開始した。(4月実施済) ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育として、キャリア講演会を9/28に1～5年生を対象に、10/19には5年生を対象に実施した。 ○校外研修旅行(オープンファクトリー:地元企業見学会)を10/18・19に実施し、受け入れ可能な地元企業32社の内16社+1公共団体を第2学年全員(209人)の学生が訪れ見学した。</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。 鳥取県、近隣自治体、その他産業振興組織等との連携を強め、米子高専振興協会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p>	<p>地域共同 テクノセンター 各学科</p>	<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。 (地域共同テクノセンター) ○医工連携研究センターを中心に実施される医工連携関係の共同教育・共同研究の支援を行う。 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。 ○地域企業との課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。 ○鳥取県産業技術センターや山陰3Dものづくり情報交換会と連携して、高精度3Dプリンタを実験などの授業やロボコンなどの課外活動に活用するとともに、地元企業からの造形依頼に応える。 (機械工学科) ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。 (電気情報工学科) ○学科独自の同窓会を通じて、本校教職員と企業人材とのネットワークを深める。また、同窓会の定期的な会合をもち、その内容を充実させる。 (電子制御工学科) ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用することを検討する。 ○本校OB、OGによる企業の現状等に関する報告会の実施を検討する。 (物質工学科) ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。 (建築学科) ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○振興協力会新年交流会において、医工連携関係の講演及び研究発表を行った。(1月実施済) ■講演会 産学官連携のすすめ ケーススタディXⅢ 演題:「地域産業と医療のご縁を紡ぐ『やさしい医工連携』～中小企業の初挑戦と成功の秘訣～」 発表者:鳥根大学地域未来協創本部地域医学共同研究部 教授・部門長 中村 守彦 氏 ■技術交流会 Needs&Proposal「フレイル予防で健康長寿」 発表者:鳥取大学医学部 保健学科 地域・精神看護学講座 助教 徳嶋 靖子 氏 提案者:米子高専医工連携研究センター 副センター長 松本 正己 氏 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を4件実施した。(12～2月実施済) ○地域企業との課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を10件実施した。(適宜実施済) ○高精度3Dプリンタでの造形依頼がエンジニア科学館、オープンキャンパス及びロボコンにおいて6件あった。(7月・8月実施済) (機械工学科) ○前期は第3学年で開講している機械工学セミナーに、8名の地元のエンジニアを講師として招き講義を行った。(4月～2月実施済) (電気情報工学科) ○平成26年度に立ち上げた学科独自の同窓会活動(E科サロン)が、発足以来、毎年継続的に開催されている(9月実施済)。電気・電気情報工学科の教職員や卒業生の情報(求人や、学生の進路状況など)の気軽な交換の場として有効に機能している。 ○同窓会のネットワークを活用して、特別日課の講師を、卒業生に依頼した。3E(37名対象):1件(9月実施済) (電子制御工学科) ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用した。(適宜実施済) (企業技術者等を9月1日に公開講座講師として招聘した(参加者14名)。また2月20日に講演会の講師として活用した(参加者58名)。) ○本校OB・OGによる企業の現状等に関する報告会を実施した。(12月から1月にかけて13名のOB・OGより報告を受けた。実施回数は13回で各回の参加者数は約40名であった。)(12月・1月実施済) (物質工学科) ○企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った。(11月実施済) (建築学科) ○地域の建築家(8名)、技術者(4名)、行政機関職員(1名)を非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施した。(適宜実施済) ○6月1日に非常勤講師交流会を実施し、授業評価アンケートに関するFDを実施した。</p>			達成した。
<p>⑧国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。 鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。 理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。 地元大学との連携を推進する。 大学進学者との懇談会を設け意見聴取を行う等、OBとの連携を通して大学教育との円滑な接続を目指す。 設立から50年経過した高専制度を社会環境の急激な変化に対応させるために、技科大や地高専との連携を軸に専攻科を充実させ、大学工学部と異なる個性を持つ技術者の教育並びに地域を中心とする産業界や地方公共団体と連携した研究活動を推進する。</p>	<p>教務部 専攻科 各学科</p>	<p>⑧理工系大学との間での連携を検討し、実施する。 (教務部) ○国立高等専門学校機構本部と連動し、長岡技術科学大学との連携を推進する。 (専攻科) ○鳥取大学工学部との連携協定を活用して、鳥取大学医学部の教員を専攻科の非常勤講師として招き、医工連携協働教育を行う。専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援する。 (機械工学科) ○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。理工系大学との共同研究を行う。 (電気情報工学科) ○イノベーション指向人材育成カリキュラムの内容の開発のための具体的な方法を検討する。 ○人脈を通して、大学在在校生および大学教員等との懇談会、出前講義等の実現を目指す。 (電子制御工学科) ○他高専や技科大等との教育・研究の分野での交流会への参加を検討する。 ○医工連携を推進するため、地元企業・大学等との共同研究の可能性について検討する。 (物質工学科) ○鳥取大学医学部との医工連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。 ○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通じて連携を推進する。 (建築学科) ○構造系交流会として、呉、有明、米子の教員、学生が集まり、研究発表と構造プレザコンを行う。</p>	<p>(教務部) ○国立高等専門学校機構本部と連動し、長岡技術科学大学との連携を推進した。(4月～実施済) ○鳥取大学工学部と編入学生受入に関する話し合いを実施した。(5月実施済) (専攻科) ○鳥取大学医学部から3名の教員を非常勤講師として招き、1年後期の授業「複合社会技術論」で医工連携に関する講義を行い、専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援した。(11月実施済) (機械工学科) ○第5学年で開講している機械動力学に、鳥根大学から教員を招き講義をを行った。(4月～2月実施済) 理工系大学との共同研究を継続して行っている。具体的な共同研究は以下の通り。(4月～3月実施済) ・海熱蓄熱に関する研究(共同研究大学:岡山大学、北見工業大学)。担当教員:森田慎一教授 ・パイプ・デモンストラに関する研究、ヘリカル管内流に関する研究(共同研究大学:岡山大学、大学院 自然科学研究科 産業創成工学専攻 流体力学研究室 柳瀬真一郎教授)。担当教員:早水庸隆准教授 ・運動良好精子分離装置に関する研究(共同研究大学:横浜国立大学 大学院 工学研究院 システムの創生部門/システムのデザイン分野 百武研究室 百武徹准教授)。担当教員:早水庸隆准教授 ・波力発電用直線垂直軸タービンに関する研究(共同研究大学:佐賀大学海洋エネルギー研究センター 木上洋一教授)。担当教員:早水庸隆准教授・高クヌッセン数流れにおける固体壁面での気体分子散乱特性に関する研究(共同研究大学:東北大学流体科学研究所 徳増研究室 徳増崇教授)。担当教員:早水庸隆准教授 (電気情報工学科) ○三機関連携による、イノベーション指向人材育成カリキュラムの開発準備のため、豊橋技大及び長岡技大との交流を進めた。(適宜実施済) ○人脈を通して、大学から出前講義の講師(大学教員)を招き、その教員との懇談会を実施した。 ・長岡技科大 4E対象(46人): 1件(4月実施済) ・岡山大学 5E対象(39人): 1件(1月実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
			<p>(電子制御工学科) ○技科大等との教育・研究の分野での交流会に参加した。(3月6,7日に豊橋技科大との交流会に2名が参加した。) ○医工連携を推進するため、地元企業等との共同研究を検討した。(鳥取大学・地元企業と共同で11月に県の事業に申請を行い、1月に採択されている。)(適宜実施済)</p> <p>(物質工学科) ○認定NPO法人自然再生センターとの共同研究において島根大学と連携を実施した。(適宜実施済) ○鳥取大学医学部と連携して研究を実施した。(適宜実施済) ○広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した。(10月実施済) ○長岡技術科学大学との共同研究を実施した。(適宜実施済) ○(独)酒類総合研究所との共同研究において、広島大学との連携を実施した。(適宜実施済)</p> <p>(建築学科) ○呉高等との構造系研究交流会(ブレデザコン)を8月23日に行った。</p>			
<p>⑨ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。</p>	<p>教務部 各学科・科 情報管理室</p>	<p>⑨校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。</p> <p>(教務部・情報管理室) ○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。 ○端末を使用できる教室の使用環境改善を検討する。</p> <p>(教務部) ○CALL教室の教育効果を増すためソフトウェアの更新を計画するなど、e-ラーニングの利用などを含めて、ICTを活用した教育環境の整備を継続する。</p> <p>(機械工学科) ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。 ○3D-CADの自習用ライセンスを取得し、学生の自学自習に役立てる。 ○4年のメカトロニクス総合実習ではグループワークでのデータおよび情報共有にOffice365を活用する。</p> <p>(電気情報工学科) ○校内ネットワークによる配信を目的とした講義や実験資料のデジタル化及びその収集・整理をできるところから開始する。</p> <p>(電子制御工学科) ○e-LearningシステムやICTの利用状況を調査し、改善及び推進を検討する。 ○授業または実験でのCADの活用拡大を検討する。</p> <p>(物質工学科) ○ICTを活用した教育システムの検討に基づき、教材の導入及び実施するとともに、利用状況を検証する。</p> <p>(建築学科) ○建築用CADの自学自習環境整備を継続する。 ○部分的な科目でのe-ラーニングを導入を推進する。</p> <p>(教養教育科) ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。 ○今年度より、授業外でCALL教室を開放し、自学自習に利用できるようにする。</p>	<p>(教務部・情報管理室) ○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進めた。(適宜実施済) ○端末を使用できる教室の使用環境改善を検討した。(適宜実施済)</p> <p>(教務部) ○CALL教室および端末が使用できる教室を活用して、1～3学年の全学生に対してBlackboardによるe-ラーニング形式の学習到達度試験(CBT)を実施した。(10月～1月実施済)</p> <p>(機械工学科) ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習を勧めた。(4月～2月実施済) ○3D-CAD Solidworksの自習用ライセンスを100セット取得し、希望する学生が自由に使えるようにした。(4月～2月実施済) ○4年のメカトロニクス総合実習では授業の連絡、データの提出、グループでのデータ共有などでOffice365を活用して行った。(4月～2月実施済)</p> <p>(電気情報工学科) ○講義や実験資料のデジタル化の方法を検討し、一部の授業については、パワーポイント等の形で資料が収集可能であることが確認された。また、一部の科目で、CBTの実施を検討した。(適宜実施済)</p> <p>(電子制御工学科) ○e-Learningシステムの利用状況を調査し、改善を検討した。(10月に調査を実施した。改善としてBlackBoardやOffice365の授業での活用拡大を図り、タブレット端末、スマートフォンを授業に活用した。)(適宜実施済) ○CADソフトの充実と活用を図った。(4月以降、設計製図、回路系授業、実験実習などで活用した。)(適宜実施済)</p> <p>(物質工学科) ○3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行った。(適宜実施済) ○Blackboardを用いて、プリント配布や課題の提出を行った。(適宜実施済)</p> <p>(建築学科) ○H29年～H31年の3か年で、CAD室の整備を行うこととしており、2年目の今年度は設備充実費を活用しCADソフト最新バージョンの動作する推奨スペックのパソコンを購入した。(2月実施済) ○建築法規、建築生産の後期授業において、引き続きe-ラーニングを導入した。(10月～実施済)</p> <p>(教養教育科) ○本科4年生の「英語演習」などでCALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続した。(適宜実施済) ○今年度より、授業外でもCALL教室を開放し、自学自習に利用できるようにした。(4月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

<p>米子工業高等専門学校 第3期中期計画</p>	<p>主たる 担当部署</p>	<p>平成30年度計画</p>	<p>実績報告 (期末)</p>	<p>課題・問題点 (期末)</p>	<p>改善策 (期末)</p>	<p>実施結果 (達成状況)</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p>	<p>学生部 学生相談室</p>	<p>①メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。</p> <p>(学生部・学生相談室) ○メンタルヘルス向上のための講習会を実施する。 ○就学支援が必要な可能性のある新入生の保護者との事前相談を実施する。</p> <p>(学生相談室) ○心と体の健康調査を実施し、その結果をもとに臨床心理士による教職員FDを実施する。 ○発達障害学生にたいする合理的配慮についての教職員向け研修会を実施する。 ○SNSに関する青少年の心理について教職員向け研修会を実施する。</p>	<p>(学生部・学生相談室) ○メンタルヘルス向上のための講習会を実施した。(6月:1年生、10月・1月:3年生、1月:2年生実施済) ○SNSに関する青少年の心理について教職員向け研修会を実施した。(10月実施済)</p> <p>(学生相談室) ○就学支援が必要と思われる新入生の事前相談を実施した。(3・4月:5件) ○学校適応感尺度調査を実施した。(6月:1・4・5・専攻科、10月:2・3年) ○U.P.I検査を実施(4月:1年)、Hyper Q.Uを実施した。(5月:2・3年、7月:1年) ○メンタルヘルス向上のための学生向け講演会を実施した。(6月:1年生、10月:3・4・5年生、1月:2年生) ○メンタルヘルス向上のための教職員向け講演会を実施した。(9月実施済) ○学生支援体制に関わる研修会を実施した。(6月実施済) ○特別支援教育に関わる教職員向け研修会を実施した。(7月・1月実施済) ○特別支援会議を実施した。(7月～実施済:8回) ○学校適応感尺度調査・U.P.I検査・HyperOUをもとに、アウンセリングが必要と思われる学生をカウンセラーに繋げた。(6月～実施済:9名)</p> <p>(特別支援教育室) ○スクール・ソーシャル・ワーカー臨席で、要配慮学生に関する特別支援会議を7回実施した。また、関連するFD・SD研修会を6回開催した。(6月～1月実施済) ○要配慮学生に、特別教育支援員(コーディネーター)の協力を得て、別室授業の対応をした。(10月～2月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>②アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。</p> <p>鳥取県東中部、中山間部、県外からの入学志願者及び優秀な入学者の確保のために、寄宿舎の受け入れ体制を再検討するとともに、入寮者数の増加、女子留学生の増加、多様な学生の入寮、及び設備の老朽化を踏まえた計画的な整備を図る。</p> <p>寄宿舎等施設の現況、利用状況等の実態を把握し、計画的な整備を推進する。</p>	<p>運営会議 寮務部 図書館 事務部</p>	<p>②図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。</p> <p>(運営会議) ○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の調査・分析状況を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。(第二体育館の床改修、女子トイレ入り口の目隠し設置、男子トイレの女子トイレへの改修など)(適宜実施済) ○図書館において、パンフレットスタンドを購入し、閲覧室の有効活用を行った。(9月実施済) ○女子寮のお風呂において、魅力のある快適な改修を行った。(3月実施済) ○東寮(女子寮)において、廊下内壁の塗装改修を実施した。(3月実施済)</p> <p>(寮務部) ○食堂厨房の環境改善のための改修計画を作成したうえで予算申請を行う準備を進めた。(適宜実施済、令和元年度予算申請予定) ○男子寮浴室設備(循環装置)の改修を行なった。(10月実施済) ○男子寮浴室改修について財務と協議し、改修計画を策定したうえで予算申請を行う準備を進めた。(適宜実施済、32年度申請予定) ○女子寮(ゆずり寮)浴室で壁の塗料が剥落しているのを補修した。(3月実施済) ○平成29年寄宿舎整備計画をもとに財務と協議し、女子寮定員オーバーの対策として学生寄宿舎改修計画の変更案を策定した。(適宜実施済、32年度改修予算申請予定)</p> <p>(図書館) ○展示用設備を整備し、談話コーナー(交流プラザ)で美術部制作のポップなどによる図書紹介を8/10(金)、8/11(土)に行った。文化祭期間の11/2(金)、11/3(土)も同様の企画を行った。 ○「学生・教職員アンケート」の「学習・生活環境に関するアンケート結果」における学習参考書の更新・拡充の要望に対しては、各科より学習参考書の推薦を募った。推薦のあった図書を購入した。(適宜実施済、136冊購入) ○KOSEN4.0イニシアティブ事業「新時代のジェネリクススキル養成のためのリベラルアーツ教育」の一部として、電子掲示板の活用や図書紹介の工夫などで読書の習慣付けや図書館に目を向かせる取組を行った。(適宜実施済) ・定期試験前1週間及び期間中の日曜日に開館した。(適宜実施済) ・ゼブラコントロール(書評合戦)を実施した。(12/19(水)実施済、28名参加) ・各クラスの学生図書委員により、ブックハンティングを実施し、学生のニーズに基づく蔵書の拡充を図った。(12/4(火)実施済、48冊購入) ・所蔵が少ないジャンルを中心に、県立図書館から相互貸借で借りた図書でコーナーを設置し、貸出を行った。(適宜実施済) ・特定の本をテーマとして参加者が事前に読んでおき、本の内容について参加者同士で自由にディスカッションする方式の読書会を開催した。(5/30(水)実施済、3名参加) ○公開講座「米子高専文化セミナー」を企画・実施した。(場所は米子市福祉保健総合センター) ・第1回 5/27(日) 電子制御工学科 角田直輝先生:「多様な光子デバイス応用における非工学的視点:光物性の身近さ」、28名参加 ・第2回 6/24(日) 電子制御工学科 中山繁生先生:「米子高専の医工連携への取り組み」、30名参加 ・第3回 10/28(日) 教養教育科 酒井康宏先生:「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と鳥取県」、25名参加 ・第4回 11/18(日) 教養教育科 原田桃子先生:「移民問題」を考える～イギリスの移民政策を例にして～」、24名参加</p> <p>(財務) ○今後の留学生総数や女子留学生・女子寮生の増加を踏まえて、関連部署と予算要求に向けて今後の寮の整備計画について検討・協議を行った。(2月～3月実施済)</p>	<p>(財務) ○大規模な施設改修には、概算要求・営繕事業要求等により予算の確保が必要となる。 ○国(文部科学省)及び高専機構の施設整備の方針を踏まえて効果的に予算要求を行っていく。</p>		<p>達成した。</p>	
<p>③日本学生支援機構、及び各種財団・民間の奨学金制度等の学生支援に係る情報提供を行う。</p>	<p>学生部</p>	<p>③各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。</p> <p>(学生部) ○日本学生支援機構及び各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行う。</p>	<p>(学生部) ○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行った。(4月～実施済) ○授業料減免制度の情報提供を行った。(4月・10月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。	キャリア支援室	④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。 (キャリア支援室) ○求人データベースの充実を図る。 ○進路研究セミナーなどを開催し、企業、公務員、大学・大学院情報を提供する。	(キャリア支援室) ○インターネット情報データベースを作成し、運用を開始した。(4月実施済) ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育として、キャリア講演会を9/28に1～5年生を対象に、10/19には5年生を対象に実施した。 ○校外研修旅行(オープンファクトリー:地元企業見学会)を10/18・19に実施し、受け入れ可能な地元企業32社の内16社+1公共団体を第2学年全員(209人)の学生が訪れ見学した。 ○進路研究セミナーを1/12に実施。268ブース出展(企業248社、大学及び大学院16ブース・地元自治体4団体) 会場:米子コンベンションセンター、学生参加総数231名、保護者参加 20名。			達成した。
(6)教育環境の整備・活用	運営会議 事務部 インフラ整備 検討委員会	①-1施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 (運営会議・インフラ整備検討委員会・財務) ○地域共同テクノセンターを中心に、地方創生にかかわる地域産業の振興と地域協働教育による人材育成に資する学内環境を整備する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の持続的・計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立った計画的な施設整備を図る。 ○アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画を検討する。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 (財務) ○施設バトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○総務・企画部主導で実施されている教職員へのアンケートを活用し、安全で快適な教育環境に向けて整備を行う。	(運営会議・インフラ整備検討委員会・財務) ○地域共同テクノセンターエリア内に設立した「医工連携研究センター」の活用により、地方創生にかかわる地域産業の振興と地域協働教育による人材育成に資する学内環境を整備を行った。(適宜実施済) ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った。(6月予算示達・12月開札[E科田中博美先生・電気材料作製実習システム]) ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立ち計画的な施設整備の概算要求及び営繕要求を行った。(4月～実施済) ○アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画を検討した。(適宜実施済) ○学生指導支援体制の再整備に伴い、スクール・カウンセラー等の執務室を確保した。(5月実施済) ○インフラ整備検討委員会において物品庫をインターカー室・カウンセリング室に用途変更することを決定し(7月実施済)、改修を実施した(3月実施済) ○各室の稼働状況を調査・確認し、今後に向け部屋の有効利用等を検討した。(適宜実施済) (財務) ○施設バトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、その都度修繕等をおこなった。(4月～実施済) ・正門横外灯取付(11月実施済) ・F棟教室の照度改善(1月実施済) ・男子寮洗濯小屋根補修(3月実施済) ・玄関前大屋根修繕(3月実施済) ○教育環境の整備として空調機の更新を順次進めていくよう営繕要求をおこなう計画を策定し予算要求をおこなった。(4月～実施済)	(財務) ○空調機の更新については、校舎全体の一括更新を旨指して概算要求を行ったが、経年の問題で予算化されず、今年度から毎年の更新に切り替えて営繕要求を行ったが予算化されなかった。	(財務) ○引き続き空調機の更新の重要性を訴えてあらゆる方法で予算要求を行う。	達成した。
①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、必要な耐震化を推進する。	インフラ整備 検討委員会 事務部	①-2安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 (インフラ整備検討委員会) ○安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、耐震化の必要性を検討し、必要に応じて予算要求を行う。 (財務) ○施設バトロールを中心に安全衛生管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○コストを含めて実施可能な整備を迅速に行う。	(インフラ整備検討委員会・財務) ○教育環境の充実のための部屋の有効利用等を検討し、インフラ整備検討委員会において物品庫をインターカー室・カウンセリング室に用途変更することを決定し(7月実施済)、改修を実施した(3月実施済) ○建物の用途変更も踏まえ一部男子トイレより、女子トイレへの改修を実施した。(3月実施済)耐震化への必要性は、既に対応済であった。よって、予算要求は、行っていない。 (財務) ○安全管理に関する施設バトロールは継続的に実施した。(毎月1回・4月～実施済) ○実施可能な整備・修繕を迅速におこなった。(適宜実施済) ・正門横外灯取付(11月実施済) ・F棟教室の照度改善(1月実施済) ・男子寮洗濯小屋根補修(3月実施済) ・玄関前大屋根修繕(3月実施済)			達成した。
①-3 PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	安全衛生委員会 事務部	①-3PCB廃棄物の計画的な処理を実施する。 (安全衛生委員会・財務) ○PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	(安全衛生委員会・財務) ○保管していたPCB廃棄物(蛍光灯安定器)を適正に処分した。(11月実施済) ○2月の再調査で新たに発見されたPCB廃棄物については適正に処分するまでの間適切に保管することとした。(2月～実施済)			達成した。
②専門学科分野ごとの安全管理講習会を実施する。 安全管理のための機構等主催の講習会に積極的に参加させる。	安全衛生委員会	②安全管理のための講習会に積極的に参加する。 (安全衛生委員会) ○AED等の講習会を開催する。 ○安全管理講習会等に参加する。 ○機構で作成する実験実習安全必修を配付し、安全意識の啓発に努める。	(安全衛生委員会) ○AED等の講習会を開催した。「外傷に対する手当てとAEDを用いた救命措置講習会」を平成31年1月30日(水)に開催し、37名の教職員が受講した。 ○安全管理講習会等に参加した。平成30年10月25日(木)から26日(金)に開催された「中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会」(鳴教大)へ、小川委員が参加した。 ○高専機構で発行されていた「実験実習安全必修」が発行されなくなったため、今年度は実験実習安全必修の冊子の学生への必要部数が不足することからデータ形式で学生向情報ページに掲載し周知を行うことで安全意識の啓発に努めた。(適宜実施済)	(安全衛生委員会) ○教員の参加者が少なかったため、今後参加人数を増やすための対策を検討する必要がある。	(安全衛生委員会) ○教職員が参加しやすい開催時期を検討する。	達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
	運営会議 男女共同参画推進室 事務部	③男女共同参画に向けた取り組みを推進する。 (運営会議) ○男女共同参画や理系女子学生増(特に機械・電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進する。 ○教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をする。 ○仕事とライフイベントの両立支援(ワークライフバランス)のための情報を提供する。 (男女共同参画推進室・財務) ○女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、女性の意見を聴きながら、更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。	(運営会議) ○入学案内パンフレットやポスター、校外向けHPの在校生メッセージに女子学生を積極的に掲載し、PRを行った。(5月実施済) ○全ての教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をした。(適宜実施済) ○仕事とライフイベントの両立支援(ワークライフバランス)のための情報を全教職員に対し提供した。(4月～3月実施済) (男女共同参画推進室・財務) ○男女共同参画推進室にて収集した女性教職員などの意見を運営会議で報告し、インフラ整備委員会へ引き継いだ。(9月実施済) ○男女強度参画推進室で得た女子学生からの要望を反映し、女子更衣室隣の女子トイレ・洗面所入口に目隠し仕切りを設置した。(9月実施済) ○3階合同講義室東側の男子トイレを女子トイレに改修し、校内の男女トイレ数比率を適正化した。(3月実施済) (運営会議・財務) ○女性教職員の就業環境改善のため、男女共同参画推進室と連携し、女性用トイレの整備を行った。(7月計画済・3月実施済)	(財務) ○女性教職員の就業環境改善のための整備は、引き続き検討する必要がある。	(財務) ○男女共同参画推進室と連携し設備の整備を進める。	達成した。
2・研究や社会連携に関する事項	運営会議 地域共同 テクノセンター	①全国規模のシース発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得に向けた取り組みを実施する。 (運営会議) ○全国規模の研究シース発表の奨励、及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、FDやプレレビューなど外部資金獲得率の向上に資する取り組みを実施する。 (地域共同テクノセンター) ○全国高専フォーラム、とっとり産業技術フェアなどへ参加し、研究成果や技術シースを発表する。 ○JUSTイノベーション・ジャパン2018-大学見本市など、全国規模のフェアへ研究成果や技術シースを出展する。 ○科研費に関するFD研修会や、申請者によるグループディスカッション、申請書の事前レビュー、フォローアップを実施する。 ○JUST等の外部資金に関する説明会を実施する。	(運営会議) ○科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、これに関するFD研修を実施した。(9月実施済) (地域共同テクノセンター) ○全国高専フォーラム及びとっとり産業技術フェアへ参加し、研究成果や技術シースを発表した。 ・全国高専フォーラム(名古屋大学)において、3件のポスター発表を行った。(8月実施済) ・とっとり産業技術フェア(米子コンベンションセンター)にて、ロボコン、Pepperの実演、フライングバブル水を用いた魚の飼育等の展示を行った。(9月実施済) ○JUSTイノベーション・ジャパン2018-大学見本市に物質工学科・谷藤教員がテーマ「卵殻の内膜の力で食品の着色変化を抑制する変化」で出展した。(8月実施済) ○科研費に関するFD研修会や、申請者によるグループディスカッションを実施した。 ・FD研修会(講師:金沢大学 村本健一郎氏)を実施した。(9月実施済) ・申請者によるグループディスカッションを5回実施した。(9月・10月実施済) ・高専機構の科研費申請審査読者ネットワークによるH31科研費研究計画調書の査読に応募し1件の査読を受けた。(9月実施済) ○JUST等の外部資金に関する説明会を実施した。 ・JUSTマッチングプランナーによるA-STEP公募説明会を実施した。(4月実施済) ・農水省関係補助金の説明会を実施した。(6月実施済) ・A-STEPの公募説明会を実施した。(6月実施済) ・科研費の公募説明会(テレビ会議)を実施した。(10月実施済)			達成した。
②産学官連携活動の強化・推進を図る。 各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。	地域共同 テクノセンター	②産学官連携活動の強化・推進を図るとともに、各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。 (地域共同テクノセンター) ○米子高専振興協会会員企業に対し、満足度を向上させるための方策を実施する。 ○産学連携コーディネータを配置し、企業ニーズの掘り起こしや教員シースとのマッチングを図る。 ○山陰合同銀行を始めとする「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図る。 ○鳥取大学「COO+プロジェクト」及び鳥取短期大学「とっとりプラットフォーム5+α」等との連携により、地域の「地方創生」事業に積極的に関わる。 ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、鳥取県の東・中部地区における産学連携活動を展開する。 ○MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)主催の「テーマ別大学・高専合同研究シース発表会」に参加し、研究成果や技術シースを発表する。	(地域共同テクノセンター) ○米子高専振興協会会員企業に対し、満足度を向上させるための方策に取り組んだ。 ・総会を開催した(BeYOND講演、開発援助費成果報告など)。(7月実施済) ・東中部地区企業見学会開催し、大山乳業農業協同組合・オムロンスイッチアンドデバイス㈱の見学及び学校の近況報告を行った。(9月実施済) ・西部地区企業見学会を開催し、鳥根ナカバヤシ㈱松江工場及び松江バイオマス発電㈱を見学した。(3月実施済) ・人材育成事業「人を育てる(h-BeYOND)」及び「技術を育てる(t-BeYOND)」を実施した。(8月～3月実施済) ○産学連携コーディネータを配置し、企業ニーズの掘り起こしや教員シースとのマッチングを図った。 (適宜実施済) ・日立金属㈱安来工場冶金研究所、松原産業㈱、旭東電気㈱などからの技術相談に対応した。(4月～9月実施済) ○山陰合同銀行を始めとする「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図った。 ・大山町の空き家対策・街並み保全について建築学科の小橋教員が御来屋地区において専攻科生と研究・活動を行った。(適宜実施済) ○鳥取大学COO+プロジェクト等との連携により、地域の「地方創生」事業に積極的に関わった。 ・遠隔講義システムを利用して、他機関の講演やセミナーを受講するとともに、本校で開催した講演やセミナーを発信した。(適宜実施済) ・総務省「若者を対象としたIoT機器の適正な電波利用を図るための人材育成方策に関する調査研究」鳥取運営委員会へ参画し、Web×IoTメカケースチャレンジ事業に協力した。(適宜実施済) ・鳥取大学ジュニアドクター育成塾プロジェクトに平成29年度より参画し、今年度は環境基礎プログラム及び環境探検プログラムを実施した。(適宜実施済) ・鳥取大学主催の「戦略的イノベーション創造プログラム: SIPシンポジウム『近未来の社会を支えるインフラ維持管理技術の最前線』」を本校で開催した。(12月実施済) ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、産学連携コーディネータを1名配置し、産学官連携活動を実施した。(適宜実施済) ○MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)主催の「テーマ別大学・高専合同研究シース発表会」に参加し、電気情報工学科・奥雲教員がテーマ「自動運転への応用とした超音波センサシステムの開発」について研究シースを発表した。(7月実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
③知的財産活動を推進する。 各種のマッチングシステムを活用し、発明案件の知財化を推進する。	地域共同 テクノセンター	③知的財産活動を推進し、発明案件の知財化を推進する。 (地域共同テクノセンター) ○知的財産に関するFD研修会を実施する。 ○産学連携コーディネーターによる知財化活動のノウハウを収集する。	(地域共同テクノセンター) ○知的財産に関するFD研修会を実施した。(3月実施済) テーマ：「学生のチャレンジの場、高専発ベンチャー Next Technologyの取り組み」 講師：北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科 機械創造システムコース 准教授 滝本 隆氏 ○振興協力会の人材育成事業「技術育てる(t-BeYOND)」において、産学連携コーディネーターによる知財化活動のノウハウを収集した。(適宜実施済)			達成した。
④シーズ集と活動報告を発行する。 研究者データベースへの登録・データ更新を推進する。 ホームページとメディアを活用した情報発信を推進する。	地域共同 テクノセンター	④シーズ集やホームページ・メディアを活用した情報発信を推進する。 (地域共同テクノセンター) ○「米子高専シーズ集2018」「医工連携シーズ集2018」「平成29年度テクノセンター活動報告」を発行する。 ○JUSTの「researchmap」への登録と内容の更新を校内に啓発する。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行う。	(地域共同テクノセンター) ○「米子高専シーズ集2018」「医工連携シーズ集2018」「平成29年度テクノセンター活動報告」を発行した。(5~7月実施済) ○JUSTの「researchmap」への登録と内容の更新について、新規採用者に対しては採用月に、全教員に対しては10月に周知した。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行った。 +中津テレビで出前講座・公開講座をPRした。(5月実施済) +各種講座、振興協会行事など、メディアに対してその都度取材依頼した。(適宜実施済)			達成した。
⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定する。 満足度アンケート調査を行い、内容や実施方法の改善を図る。	地域共同 テクノセンター	⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定し、満足度の向上を図る。 (地域共同テクノセンター) ○公開講座・出前講座・連携講座等を実施するとともに、その内容の刷新に努める。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立てる。 ○外部機関との連携を図り、実施内容の重複回避や分担実施に努める。	(地域共同テクノセンター) ○公開講座・出前講座・連携講座等を実施した。 ・前期開講実績 出前講座74件(29年度59件) 公開講座26講座(29年度21講座) 連携講座6講座(29年度6講座) ※詳細は教員会議で公表した。(12月実施済) ・後期開講実績 出前講座17件(29年度15件) 公開講座 2講座(29年度 3講座) 連携講座 4講座(29年度12講座) ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立ており、アンケート結果は教員会議で公表した。(12月実施済) ○アンケート調査で把握した地域ニーズを実践するための検討を行った。(適宜実施済) ○鳥取県職業能力開発協会と連携し、厚生労働省「IT マスター」の認定申請手続きを行うとともに、ITマスターの講習を本校の公開講座・出前講座と連携して実施することを検討した。(10月実施済)			達成した。
3・国際交流等に関する事項	教務部 専攻科 国際交流	①-1社会のグローバル化に対応できる人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。 (教務部) ○カリキュラム改正により実施2年目となる4・5年英語選択科目と、第二外国語の有効性の評価のしかたを検討する。 (教務部・専攻科) ○在校生の海外発表や海外語学研修を奨励する。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励する。 (国際交流) ○韓国の協定校である南ソウル大学校に加え、昨年12月に協定締結した群山大学校との間で、双方向の交流プログラムを実施する。 ○新たに台湾の国立中興大学と協定を締結し、今後の交流について協議を行う。 ○国立高専機構、国際協力機関(JICA、JICE等)、中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムや第4ブロックグローバル高専事業で合同実施する海外派遣研修への参加を推進する。 ○海外研修参加学生による報告会等を活用し、学生向けの広報活動を推進する。 ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人講演を実施する。 ○外国語教育の充実に関する教員向け講習会や学生向けプログラムへの参加を推進する。	(教務部) ○カリキュラム改正により実施2年目となる4・5年英語選択科目と第二外国語の有効性の検証を進めた。(適宜実施済) ○海外インターンシップや海外研修への参加について一定の条件を満たしたものに単位を認定した。(3月実施済) (教務部・専攻科) ○学生の各種海外発表や海外語学研修への参加を奨励した。(適宜実施済) ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励した。(適宜実施済、1名9月参加済) (国際交流) ○韓国の協定校である南ソウル大学校、群山大学校との間で、鳥取大学と連携した受入研修(受入学生20名、本校学生21名(うち留学生7名))を実施した。(6月実施済) ・韓国研修旅行(派遣学生8名)、韓国ステータアップ研修(派遣学生6名)を実施した。(9月実施済) ○台湾の国立中興大学と協定を締結し(8月実施済)、今後の交流について協議を行った。(9月実施済) ○海外派遣研修への参加を推進し、平成30年度トビタテ1留学JAPAN高校生コースに学生2名が採択され、参加した。(9月実施済) ・平成31年度トビタテ1留学JAPAN高校生コースに学生14名が申請し(1月実施済)、うち12名が1次審査(書類審査)を通過した。(3月実施済) ・ISTS2018に学生1名が参加した。(10月実施済) ・中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが実施するフィリピン研修(派遣学生8名)、オーストラリア研修(派遣学生3名)、マレーシア研修(派遣学生2名)、台湾研修(派遣学生1名)に参加した。(8、9月実施済) ・中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが実施する台湾での合同研究発表会(派遣学生3名)に参加した。(12月実施済) ○海外研修参加学生による座談会を実施した。(10月実施済) ○国際性の涵養のため、LHRで国際交流員の外国人講演を実施した。(1年生対象、7月実施済) ・マレーシア・ババン大学より講師を招聘し、専門科目での英語使用授業を12クラスにて実施した。(12月実施済) ○外国語教育の充実に関する教員向け講習会や学生向けプログラムへの参加を推進し、グローバル高専事業FDを実施した。(11月実施済) ・英語宿舎(第4ブロックグローバル高専事業主催)に学生2名が参加した。(8月実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど参加する学生を積極的に支援し、継続して推薦する。</p> <p>学生の海外留学支援のため、日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行うと共に、学校の国際化やグローバル人材教育推進に資するため国際交流基金の創設・運用と、併せて国際団体が行う海外留学プログラムに関する情報提供を図る。</p>	<p>教務部</p> <p>専攻科</p> <p>各学科・科</p> <p>国際交流</p>	<p>①-2海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど、海外での学生の活動を推進する。</p> <p>(教務部・専攻科) ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。</p> <p>(機械工学科) ○教員や学生の国際的な会議・学会などへの参加により国際性の涵養に役立てる。</p> <p>(電気情報工学科) ○国際学会・国際交流会に参加する学生への資金的な援助のためのルール作りにとりかかる。</p> <p>(電子制御工学科) ○海外留学や海外インターンシップ、その他交流会等への学生の参加を推進する。</p> <p>(物質工学科) ○各種プログラムへの学生の参加を積極的に推進する。</p> <p>(建築学科) ○海外インターンシップ、海外研修等への学生の参加を推進する。</p> <p>(教養教育科) ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関する情報交換を継続的に行う。</p> <p>(国際交流) ○新たな韓国の協定校である群山大学校からの長期インターンシップ生の受入を実施する。 ○群山大学校での海外インターンシップ実施に向けた協議を継続する。 ○新たに台湾の国立中興大学と協定を締結し、海外インターンシップを企画・実施する。 ○学生の海外派遣推進のため、日本学生支援機構(JASSO)及び鳥取県国際交流財団等への奨学金申請を行う。 ○文部科学省、各種団体が行う海外研修・海外留学プログラムに関する情報提供、応募支援を行う。 ○米子高専後援会(保護者会)などと連携し、国際交流基金の充実と効果的な運用を図る。</p>	<p>(教務部) ○海外インターンシップを推進するために、単位認定に関するガイドラインを見直した。(6月実施済)</p> <p>(教務部・専攻科) ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った。(適宜実施済、1名9月参加済)</p> <p>(機械工学科) ○教員や学生が国際的な会議・学会などへの参加して国際性の涵養に役立てた。(4月～2月実施済)参加した学会・会議名と参加教員、学生数は以下の通り。 ・国際学会名: The 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, August 29, 2018, Kofu, Japan 参加学生数: 2名 ・国際学会名: 29th IAHR Symposium on Hydraulic Machinery and Systems, September 16-21, 2018, Kyoto, Japan 参加教員: 早水 隆准 准教授 ・国際学会名: International Conference on Machining, Materials and Mechanical Technologies 2018, September 19-20, 2018, Ho Chi Minh City, Vietnam 参加教員: 山口 顕司 教授 ・国際学会名 Asian Joint Workshop on Thermophysics and Fluid Science AJWTF 7(November 21-24, 2018, Trivandrum, India), 参加教員 森田 慎一 教授</p> <p>(電気情報工学科) ○現在、実施している国内学会に参加する学生への援助を参考にし、国際学会等に参加する学生への資金援助のルールを作成を開始した。(適宜実施済)</p> <p>(電子制御工学科) ○海外留学や海外インターンシップ、その他交流会等への学生の参加を推進した。(8～9月に5名の学生がオーストラリア、台湾、マレーシア、フィリピンでの語学研修に参加した。)</p> <p>(物質工学科) ○ガイダンス等海外インターンシップなどの参加について説明を行った。(10月実施済) ○国立中興大学(台湾)との共同研究を含めて、学生3名(本科生2名、専攻科生1名)および教員1名が1週間渡航した。(9月実施済)</p> <p>(建築学科) ○建築学科2年生2名、3年生3名、4年生1名、5年生1名が海外研修に参加した。(適宜実施済)</p> <p>(教養教育科) ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関する情報交換を行った。(6月実施済)</p> <p>(国際交流) ○新たな韓国の協定校である群山大学校からの長期インターンシップ生の受入を実施した。(9月～2月未まで受入実施済済済) ○群山大学校での海外インターンシップ実施に向けた協議を行った。(9月実施済) ○新たに台湾の国立中興大学と協定を締結し、海外インターンシップを企画・実施した。(9月実施済) ○学生の海外派遣推進のため、 ・昨年度申請のJASSO奨学金(協定派遣1件、協定受入1件)が採択された。(5月実施済) ・JASSO奨学金(協定派遣1件、協定受入1件)及び鳥取県国際交流財団等への奨学金申請を行い(10月実施済)、協定派遣1件が採択された。協定受入1件は不採択(追加採択待ち評価区分C)となった。(1月実施済)</p> <p>○文部科学省、各種団体が行う海外研修・海外留学プログラムに関する情報提供、応募支援を行った。(適宜実施済)</p> <p>○米子高専後援会(保護者会)などと連携し、国際交流基金の充実と効果的な運用を図った。(適宜実施済)</p> <p>○マレーシア国内の日本企業でのインターンシップ実施に向けて、現地視察及び打合せを行った。</p>	<p>(電気情報工学科) ○学科で用意できる資金が限られている。</p>	<p>(電気情報工学科) ○外部資金等の活用</p>	<p>達成した。</p>
<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じた寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。</p> <p>留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>教務部</p> <p>寮務部</p> <p>国際交流</p> <p>事務部</p>	<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>(教務部) ○必要に応じて、留学生控室を整備する。 ○留学生交流プログラムへの参加を推進する。</p> <p>(寮務部) ○平成29年度に策定された学生寄宿舎整備計画案の中の留学生に関わる部分について関連部署と検討・協議を行い、結果を整備計画に反映させる。</p> <p>(国際交流・寮務部) ○留学生相互および日本人学生との交流のため、留学生参加の学校行事等での支援を検討する。</p> <p>(国際交流) ○留学生交流シンポジウムへの参加を推進する。 ○留学生交流イベントへの参加を推進する。 ○留学生OB・OGとの情報交換網を整備する。 ○地方自治体などが行う留学生交流推進会議に参加する。</p> <p>(財務) ○関係部署と連携し留学生の生活環境整備を検討し可能なものから実施する。</p>	<p>(教務部) ○留学生控室の備品や消耗品の状況を確認し、整備した。(適宜実施済) ○留学生交流シンポジウムは留学生6名が参加予定で準備を進めていたが、台風のために開催中止となった。</p> <p>(寮務部) ○平成29年度の学生寄宿舎改修計画を元に、財務と協議して学生寄宿舎改修計画の一部変更を検討し、男子留学生と男子専攻科生を独立した棟(東寮)に割り当てる案を策定した。(適宜実施済、32年予算申請予定) ○寮行事の寮祭、男女球技大会、予備会に留学生が参加し日本人学生および留学生相互で交流した。(5、6、11、12月実施)</p> <p>(国際交流・寮務部) ○留学生相互及び日本人学生との交流のため、高専祭で留学生ブースを出店した。(11月実施)</p> <p>(国際交流) ○10月実施予定だった留学生交流シンポジウム(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム主催)は台風襲来につき中止となった。 ○留学生交流イベントへの参加を推進し、 ・FF(フレンドシップ・フォーर्स)鳥取交流会に6名の留学生が参加した。(5月実施済) ・よなご国際交流フェスティバルに留学生3名が参加した。(9月実施済) ○留学生OB・OGとの交流会を実施した。(12月、2月実施済) ○鳥取県が主催する留学生交流推進会議に参加した。(2月実施済)</p> <p>(財務) ○留学生の快適な居住環境の確保のため寄宿舎の改修を検討した。(4月実施済)</p>	<p>(財務) ○大規模な施設改修には、概算要求・當務事業要求等により予算の確保が必要となる。</p>	<p>(財務) ○予算の獲得に向けて、関係各所と連携を図り、実現可能な計画を検討する。 ○国(文部科学省)及び高専機構の施設整備の方針を踏まえて効果的に予算要求を行っていく。</p>	<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行の実施を継続するほか、国際交流活動の一つとして捉え、その他の留学生に関する行事も実施する。	教務部 国際交流	③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を超えて毎年度提供する。 (教務部) ○外国人留学生研修旅行を年1回実施する。 ○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。 ○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。 (国際交流) ○留学生の地域交流事業を企画・実施する。	(教務部) ○留学生研修旅行を実施した。(2月実施済) ○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に活かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した。(4月実施済) ○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施した。(第1回は5月実施済、第2回は1月実施済) (国際交流) ○留学生の地域交流事業として、 ・留学生が地域と共に考える環日本海海洋環境問題を企画・実施した。(6月実施済・参加留学生6名・若狭湾・米子) ・地元小学校での出前講座を企画・実施した。(7月、9月、2月実施済)			達成した。
①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。	運営会議	①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。 (運営会議) ○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。	(運営会議) ○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした特色ある本校独自の運営が可能となるよう、予算委員会で審議の上、効果的・戦略的な資源配分を行った。(6月、9月、11月、2月実施済) ○KOSEN4.0に係わる予算について、共同研究や各種講座等に配分した。(8月実施済)			達成した。
②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募る。	運営会議	②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加する。 (運営会議) ○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加者を募り参加を促す。	(運営会議) ○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募り、今年度は1名(校長補佐(寮務))が参加した。(9月実施済)			達成した。
③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討する。	事務部	③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を推進する。 (財務) ○財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討し、対応できるものから実施する。	(財務) ○若手職員を中心とする「コスト削減プロジェクト」チームを立ち上げて、コスト削減とともに業務の集約化・効率化の検討を行った。(適宜実施済) ○建物の修繕等を要する現場に赴く際に併せてその周辺の安全管理状態を確認することで施設・パトロールの効率化を図った。(適宜実施済)			達成した。
④教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。	運営会議 事務部	④全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。 (運営会議・財務) ○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや各種研修会・アンケートによって全教職員のコンプライアンス意識の向上を図るとともに、公的研究費の使用または管理・運営に当たり「誓約書」の提出を義務づける。 (財務) ○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努める。	(運営会議・財務) ○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや各種研修会・複数のアンケート実施による全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った。(4月～3月実施済) ○公的研究費の使用あるいは運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づけた。(5月実施済)その後も意識継続のため、コンプライアンスセルフチェックや(11月実施済) 研、究倫理に関するe-learningを実施した。(2月実施済) (財務) ○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努めた。(4月実施済) ○公的研究費に関するコンプライアンスについてのFD研修を実施した。(12月実施済・参加者19名)	(財務) ○説明周知を行っているが、他の機関等で不正が起きていることから、コンプライアンス意識向上のための説明の機会をさらに増やす必要がある。	(財務) ○今後も積極的に説明会・研修等を実施する。	達成した。
⑤情報セキュリティに関する監査体制の充実を図る。各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。	情報セキュリティ委員会 情報管理室 事務部	⑤各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。 (情報セキュリティ委員会・情報管理室) ○機構本部による情報セキュリティ監査を受け、その結果について速やかな対応を図る。 ○独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のため、情報セキュリティに関するeラーニングやFDを1回以上開催する。 ○高専機構IT資産管理システムによるソフトウェア検査を実施すると共に、ソフトウェア及びパソコン管理体制を充実させる。 ○情報セキュリティ実施規則・実施規程に基づく実施手順の整備を継続し、情報セキュリティ管理体制の充実を図る。 (情報管理室) ○米子高専CSIRT(シーサート)と協力し、インシデント発生時の早期対応と被害拡大の防止を図る。 (財務) ○監査結果への迅速な対応とともに期末における決算に関する検証を継続的に実施する。	(情報セキュリティ委員会・情報管理室) ○機構本部による情報セキュリティ監査を受け(12月実施済)、その結果についての対応を情報セキュリティ委員会検討した。(3月実施済) ○独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努めた。(12月実施済) ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のため、情報セキュリティに関するeラーニングを実施し(9～10月実施済)、FD研修会を開催した。(8月実施済) ○高専機構IT資産管理システムによるソフトウェア検査を実施すると共に、ソフトウェア及びパソコン管理体制を充実させた。(9～10月実施済) ○情報セキュリティ実施規則・実施規程に基づく実施手順の整備を継続し、情報セキュリティ管理体制の充実を図った。(4月～3月実施済) ○高専機構学習管理システム「Blackboard」を利用し、「教職員を対象とした誓約書及びセルフチェックリスト」を実施した。(9月実施済) ○校内ネットワークを再整備し、認証システムの導入やIPアドレスの切り分けにより、セキュリティレベルの向上を図った。(9月実施済) ○教職員の業務用端末の更新を行い、セキュリティレベルを向上させた。(3月実施済) (情報管理室) ○米子高専CSIRT(シーサート)と協力し、インシデント発生時の早期対応と被害拡大の防止を図った。(適宜実施済) (財務) ○会計検査院による決算検査報告及び会計監査人による外部監査における指摘事項又は検査概要について、本校に照らし合わせ実態確認を実施した。(適宜実施済) ○債権債務確認、物品検査及び期末決算を正常化させるための日常監査のフォローアップを実施した。(適宜実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指すとともに、必要に応じてその運用を見直す。	運営会議 事務部	⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指す。 (運営会議) ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施する。 ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図るため、公的研究費の使用または管理・運営に当たり「誓約書」の提出を義務づけるほか、適宜メール等で注意喚起を呼びかける。 (財務) ○監事監査の指摘事項も考慮の上、各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした月毎の予算執行状況を運営会議・学科長会議に諮り検証作業を実施する。	(運営会議) ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施した。(10～3月実施済) ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図るため、公的研究費の使用または管理・運営に当たり「誓約書」の提出を義務づけた(5月実施済)ほか、適宜メール等で注意喚起を呼びかけた。(適宜実施済) (財務) ○相互監査の指摘事項について迅速に対応するとともに、各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした月毎の予算執行状況を運営会議・学科長会議に諮り検証作業を実施した。(10月～実施済)			達成した。
⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。	技術教育支援センター 事務部	⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。 (技術教育支援センター) ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させる。 ○支援センター主催の部内研修のやり方について検討する。 (総務) ○機構や大学法人等主催の各種研修・講習会への参加を推進する。	(技術教育支援センター・総務) ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに、企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加した。 ・平成30年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(機械系)に1名参加した。(8月実施済) ・平成30年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(情報系・生物・生命系・農学系分野)に1名参加した。(8月実施済) ・平成30年度中国地区高専専門学校技術職員研修に1名参加した。(9月実施済) ・平成30年度IT人材育成研修会に1名参加した。(9月実施済) ・平成30年度国立高専専門学校機構情報担当者研修会に1名参加した。(11月実施済) ・平成30年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研修に2名参加した。(3月実施済) ・低圧電気取扱業務特別教育に1名参加した。(7月実施済) ・能力開発セミナー(鉛フリーはんだ付け技術)に1名参加した。(8月実施済) ・能力開発セミナー(機械の電気安全)に1名参加した。(9月実施済) ・二級ボイラー技士受験準備講習会に1名参加した。(9月実施済) ・能力開発セミナー(機械設計技術者のための溶接技術)に1名参加した。(11月実施済) ・機械研削用砥石取替試験運転特別教育に1名参加した。(12月実施済) ・日本ものづくりワールド2019 第30回設計製造機器ソリューション展に1名参加した。(2月実施済) ・第12回統合認証システムプログラムに1名参加した。(3月実施済) ・第20回「建築・材料展2019」に1名参加した。(3月実施済) ・総合技術研究会2019九州大学に2名参加した。(3月実施済) ○支援センター主催の部内研修については、「技術長による講話」及び「技術支援体制に関する座談会」を実施した。(2月実施済)			達成した。
⑧事務職員及び技術職員の人事交流を引き続き推進する。	技術教育支援センター 事務部	⑧事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 (技術教育支援センター) ○人事交流の一環として中国地区高専での技術職員の授業見学を継続して実施する。 (人事) ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう随時調整を行う。	(技術教育支援センター) ○人事交流の一環として中国地区高専での技術職員の授業見学については、松江高専への授業見学を4名実施した。(12月実施済) (人事) ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう随時調整を行った。(適宜実施済)			達成した。
⑨教職員に対し情報セキュリティに関する研修を行う。 学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を図る。 情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第三者機関による監査を実施する。 情報セキュリティ対策を適切に推進する。 高専統一システムに係る環境整備を推進する。	情報セキュリティ委員会 情報管理室	⑨適切な情報セキュリティ対策を推進する。 (情報セキュリティ委員会) ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識向上のために、情報セキュリティに関する研修会を1回以上開催する。また、定期的に情報セキュリティガイドなどを配布し、セキュリティ意識の啓発に努める。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を講演会などを通じて実施する。 ○セキュリティインシデント発生時においては、米子高専CSIRT(シーサート)による早急な対応が行われるよう、運用体制の継続的な整備を進める。 (情報セキュリティ委員会・情報管理室) ○情報セキュリティ運営体制に関し、第三者機関による独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 (情報管理室) ○情報セキュリティ実施規則・実施規程に基づく実施手順を必要に応じて順次整備し、情報セキュリティ管理体制の充実を図ると共に、ガイドラインに則りインシデント発生時の早期対応を図る。 ○高専機構IT資産管理システムによるパソコン・ソフトウェア検査を実施する。 ○高専統一ネットワークシステムの導入・整備を推進し、安定運用に努める。 ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のため、情報セキュリティに関するeラーニングや研修を1回以上開催する。 ○米子高専CSIRT(シーサート)と協力し、インシデント発生時の早期対応と被害拡大の防止を図る。	(情報セキュリティ委員会) ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識向上のために、情報セキュリティに関する研修会を開催した。(8月実施済) また、定期的に情報セキュリティガイドなどを配布し、セキュリティ意識の啓発に努めた。(適宜実施済) ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を講演会などを通じて実施した。(新入生は4月のガイダンスにて、その他の在校生はLHRや掲示等により適宜実施済) ○セキュリティインシデント発生時においては、米子高専CSIRT(シーサート)による早急な対応が行われるよう、運用体制の継続的な整備を進めた。(4月～3月実施済) (情報セキュリティ委員会・情報管理室) ○情報セキュリティ運営体制に関し、第三者機関による独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努めた。(12月実施済) (情報管理室) ○情報セキュリティ実施規則・実施規程を整備した。(11月実施済) ○高専機構IT資産管理システムによるソフトウェア検査を実施した。(9月～10月実施済) ○高専統一ネットワークシステムを維持・管理し、安定運用に努めた。(適宜実施済) ○情報セキュリティ研修会を実施した。(8月実施済) ○情報セキュリティ教育(eラーニング)を実施した。(9月～11月実施済) ○米子高専CSIRT(シーサート)と協力し、インシデント発生時の早期対応と被害拡大の防止を図った。(適宜実施済)			達成した。
⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。なお、その際には、学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	運営会議	⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 (運営会議) ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校独自の個別の年度計画を定める。また、年度計画に対する実施状況のフォローアップを各部署で実施する。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標の検討を継続する。	(運営会議) ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校個別の年度計画を定め(5月実施済)、また、年度計画に対する実施状況の中間フォローアップを各部署で各点検部会とともに実施した。(10月実施済)また、年度末の実績のとりまとめを各点検部会とともに実施した。(3月実施済) ○年度計画において、学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を盛り込んだ。(5月実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成30年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>業務運営の効率化を図る観点から、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。</p> <p>平成19年度に策定した随意契約見直し計画に基づき、一層の取り組みを推進する。</p>	<p>事務部</p>	<p>(財務)</p> <p>○平成30年度における機構の予算編成・配分方針に基づく効率化を踏まえた戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p> <p>○平成19年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札、および契約の適正な実施に取り組み競争性・透明性の確保を図る。</p>	<p>(財務)</p> <p>○運営費交付金の削減状況を踏まえ、学内の予算配分を見直しを行うとともに、年度途中で再配分を行い効率的な資源配分を行った。(4月～実施済)</p> <p>○一般競争により競争性を確保し、僅少であるが資源の有効利用に努めた。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。</p> <p>各種補助金への申請を奨励する。</p> <p>継続的で効率的な予算配分を実施するために可能な限り増収の方策の検討し、実施する。</p>	<p>地域共同 テクノセンター 事務部</p>	<p>(地域共同テクノセンター)</p> <p>○産学連携コーディネータを配置し、技術相談から共同研究・受託研究への展開を図る。</p> <p>○科研費以外の各種の補助事業に対し、シーズがマッチする教員へ申請を打診する。</p> <p>○産学連携コーディネータによる、企業向け補助金への参画支援、申請に関するアドバイスを行う。</p> <p>(財務)</p> <p>○継続的に自己収入の確保に努めるとともに、新たな自己収入の事項を検討する。</p>	<p>(地域共同テクノセンター)</p> <p>○産学連携コーディネータを通して日立金属㈱安来工場冶金研究所などから技術相談を受け、寄附金の獲得につなげた。(9月実施済)</p> <p>○科研費以外の各種の補助事業の情報をHP又はメールにて周知し、シーズがマッチするものがあれば、産学連携コーディネーター又はテクノセンタースタッフが申請を打診した。(適宜実施済)</p> <p>○産学連携コーディネーターにより教員のA-STEP、サポイン及びNEDOなどへの申請等をサポートした。(適宜実施済)</p> <p>(財務)</p> <p>○新たな自己収入の事象がないか検討した。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。</p> <p>施設マネジメントの充実を図り、教育研究活動に対応した適切な施設の確保・活用を計画的に進める。</p>	<p>運営会議 インフラ整備 検討委員会 事務部</p>	<p>(運営会議・インフラ整備検討委員会)</p> <p>○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。</p> <p>(財務)</p> <p>○施設パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。</p> <p>○コストを含めて実施可能な整備を迅速に行う。</p>	<p>(運営会議・インフラ整備検討委員会)</p> <p>○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定し、本年度は以下の工事を行った。(7月～3月実施済)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフライン再生Ⅱ期(排水設備等)工事 ・第二体育館床改修工事 ・女子学生用トイレの改修 ・物品庫の改修 ・屋外ブロック塀の撤去・改修 <p>(財務)</p> <p>○安全管理に関する施設パトロールは継続的に実施し発見した危険箇所について下記のとおり整備等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門様外灯取付(11月実施済) ・F棟教室の照度改善(1月実施済) ・男子寮洗濯小屋根補修(3月実施済) 			<p>達成した。</p>
<p>2 人事に関する計画</p> <p>教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p>	<p>運営会議</p>	<p>(運営会議)</p> <p>○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p> <p>○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野及び派遣候補者の推薦を依頼し、提出された資料をもとに、教員人事会議で審議の後、運営会議で受入と派遣計画を策定する。</p>	<p>(運営会議)</p> <p>○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図った。(4月～3月実施済)</p> <p>○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼したが、派遣候補者の推薦はなかった。(8月実施済)</p> <p>○平成31年度高専機構在外研究員として電気情報工学科田中博美准教授を推薦し、採択された。(9月実施済)</p>			<p>達成した。</p>